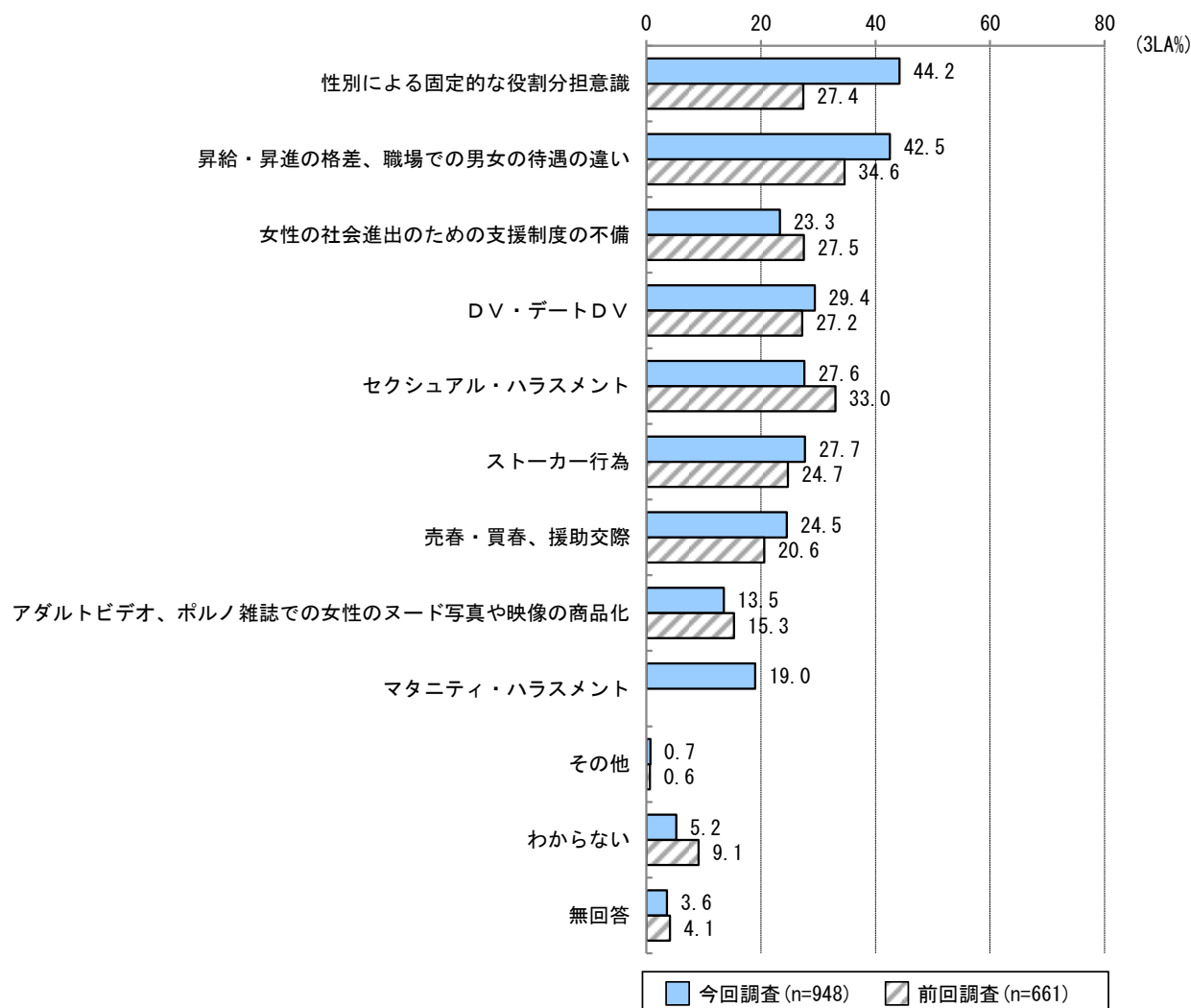


5. 人権課題ごとについて

(1) 女性の人権で特に問題があるもの

問16 女性に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

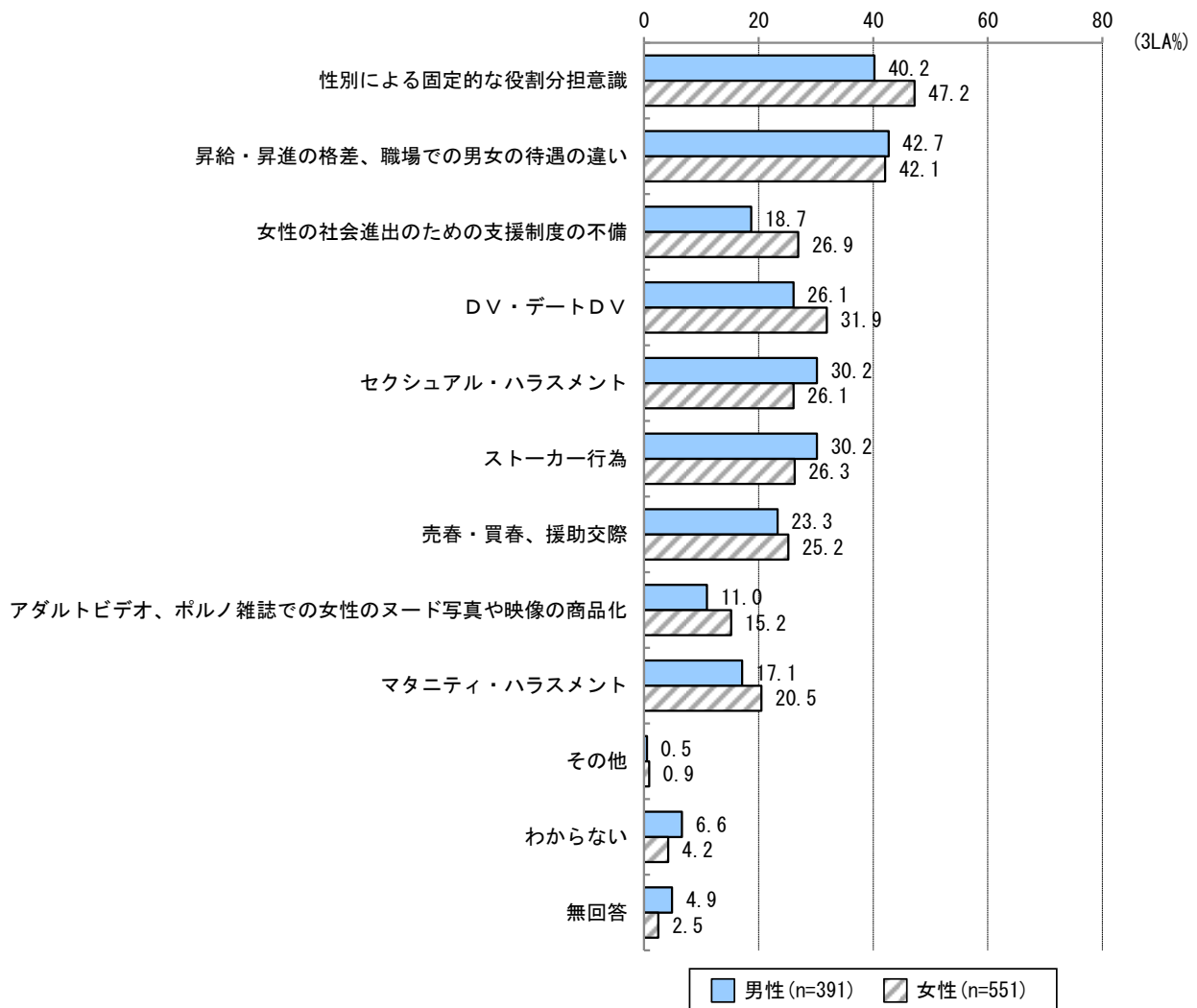
【図5-1 女性の人権で特に問題があるもの（経年比較）】



女性の人権で特に問題があるものについて、「性別による固定的な役割分担意識」が44.2%で最も多く、次いで「昇給・昇進の格差、職場での男女の待遇の違い」が42.5%、「DV・デートDV」が29.4%となっています。

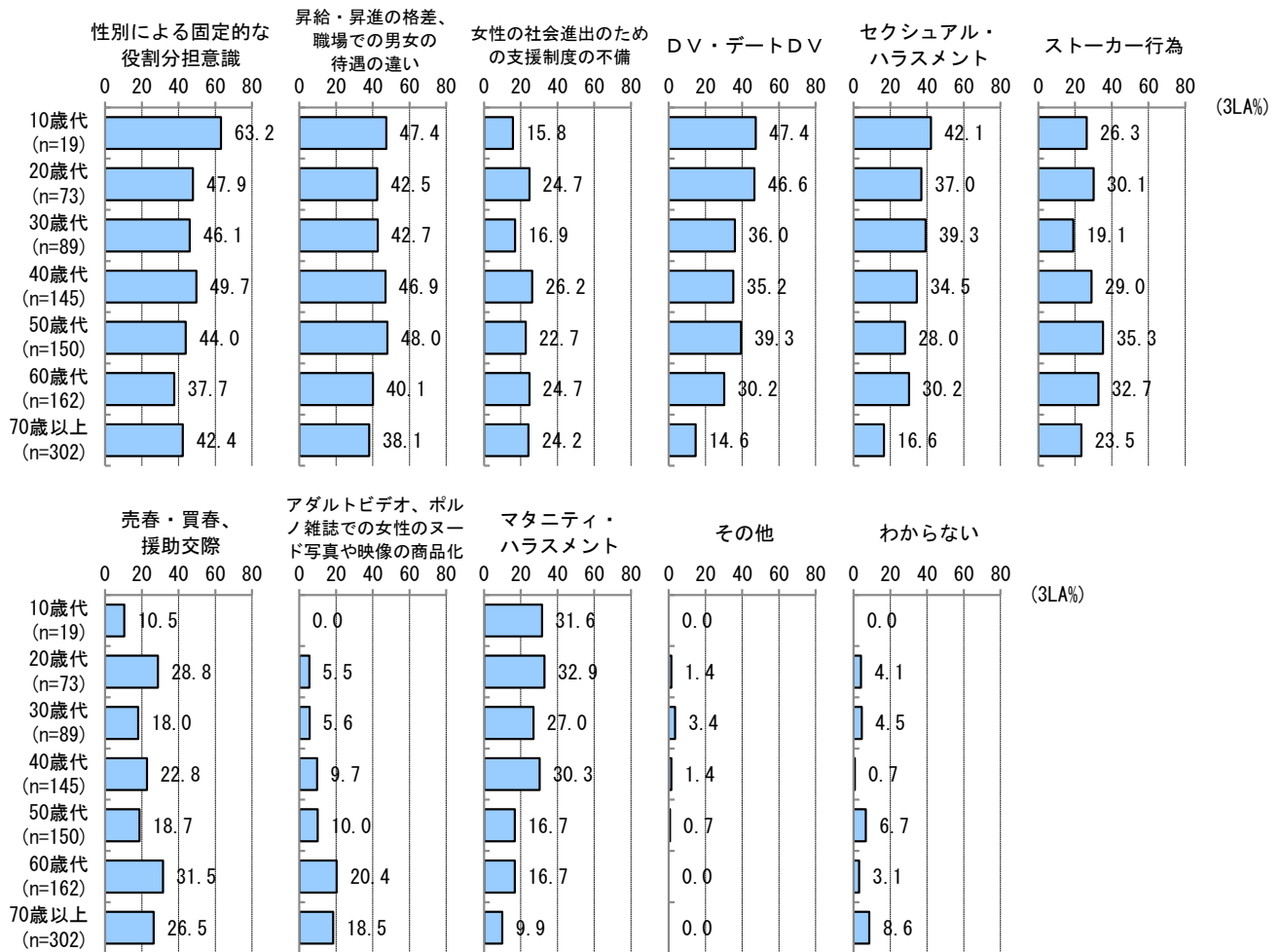
前回調査と比較すると、「性別による固定的な役割分担意識」が16.8ポイント、「昇給・昇進の格差、職場での男女の待遇の違い」が7.9ポイント高くなっています。一方、「セクシュアル・ハラスメント」は5.4ポイント、「女性の社会進出のための支援制度の不備」は4.2ポイント低くなっています。(図5-1)

【図5-1-1 女性の人権で特に問題があるもの（性別）】



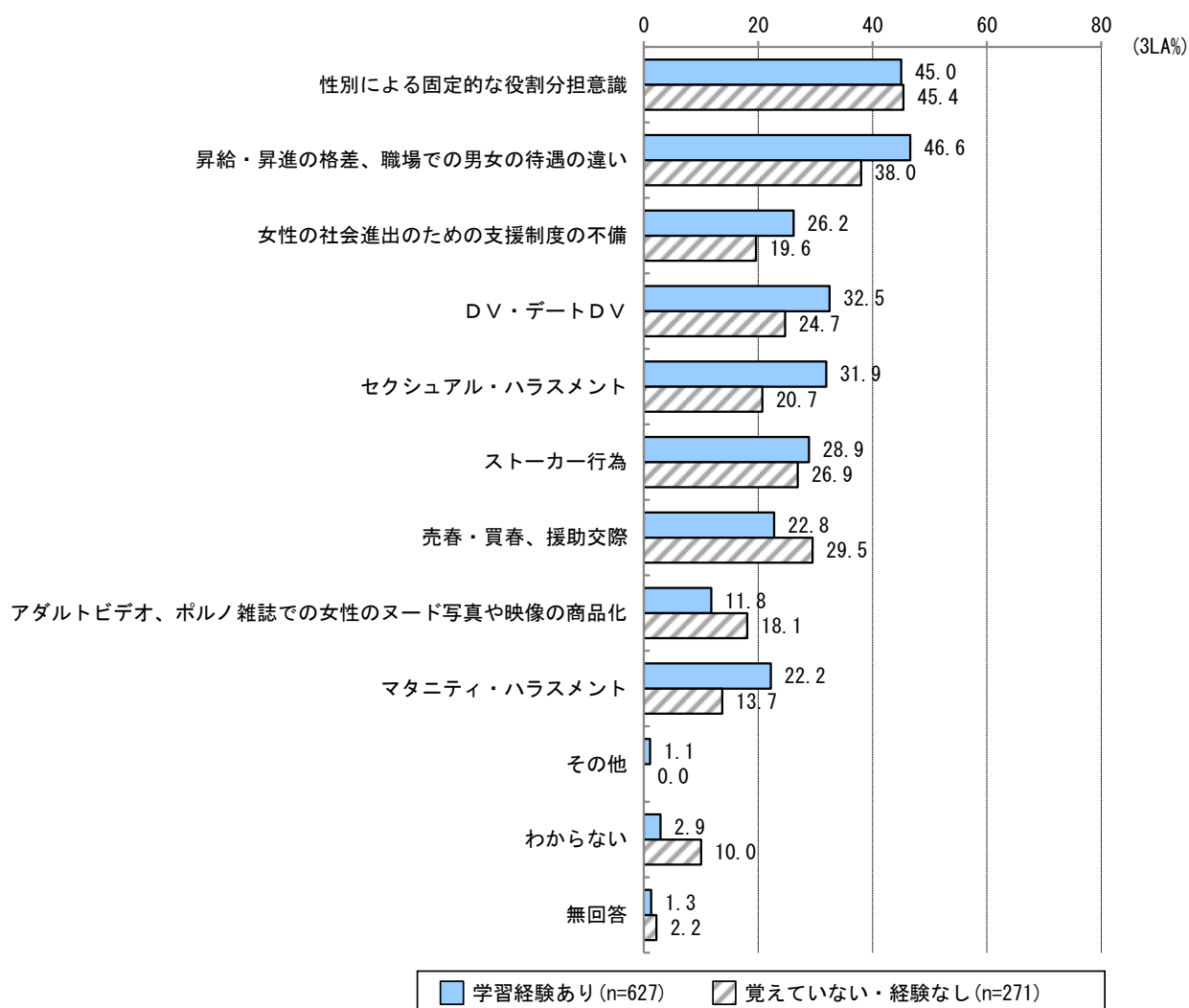
性別でみると、男性は「昇給・昇進の格差、職場での男女の待遇の違い」が42.7%で最も多くなっており、女性（42.1%）の割合とほぼ同率となっています。女性は「性別による固定的な役割分担意識」が47.2%で最も多く、男性（40.2%）と比べて7.0ポイント高い割合になっています。また、「女性の社会進出のための支援制度の不備」と「DV・デートDV」では、女性が男性より5ポイント以上高い割合になっています。一方、「セクシュアル・ハラスメント」と「ストーカー行為」では、男性が女性より約4ポイント高い割合になっています。（図5-1-1）

【図5-1-2 女性の人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、若い年代ほど「性別による固定的な役割分担意識」や「DV・デートDV」、「セクシュアル・ハラスメント」、「マタニティ・ハラスメント」の割合が高くなる傾向にあります。（図5-1-2）

【図5-1-3 女性の人権で特に問題があるもの（人権問題についての学習経験の有無別）】

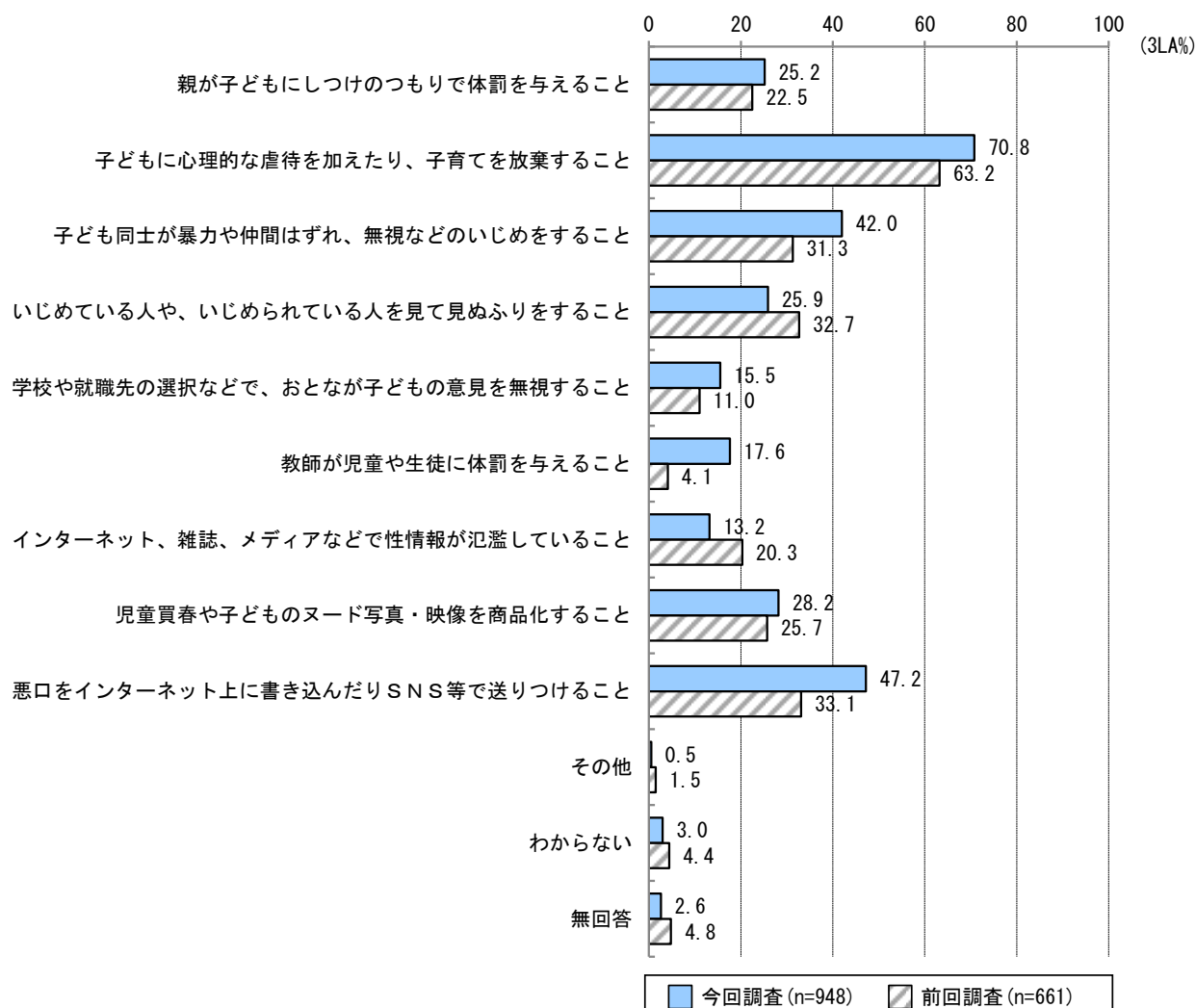


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合となる上位5項目は、「セクシュアル・ハラスメント」が11.2ポイント差、「昇給・昇進の格差、職場での男女の待遇の違い」が8.6ポイント差、「マタニティ・ハラスメント」が8.5ポイント差、「DV・デートDV」が7.8ポイント差、「女性の社会進出のための支援制度の不備」が6.6ポイント差となっています。（図5-1-3）

（２）子どもの人権で特に問題があるもの

問17 子どもに関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（○は3つまで）

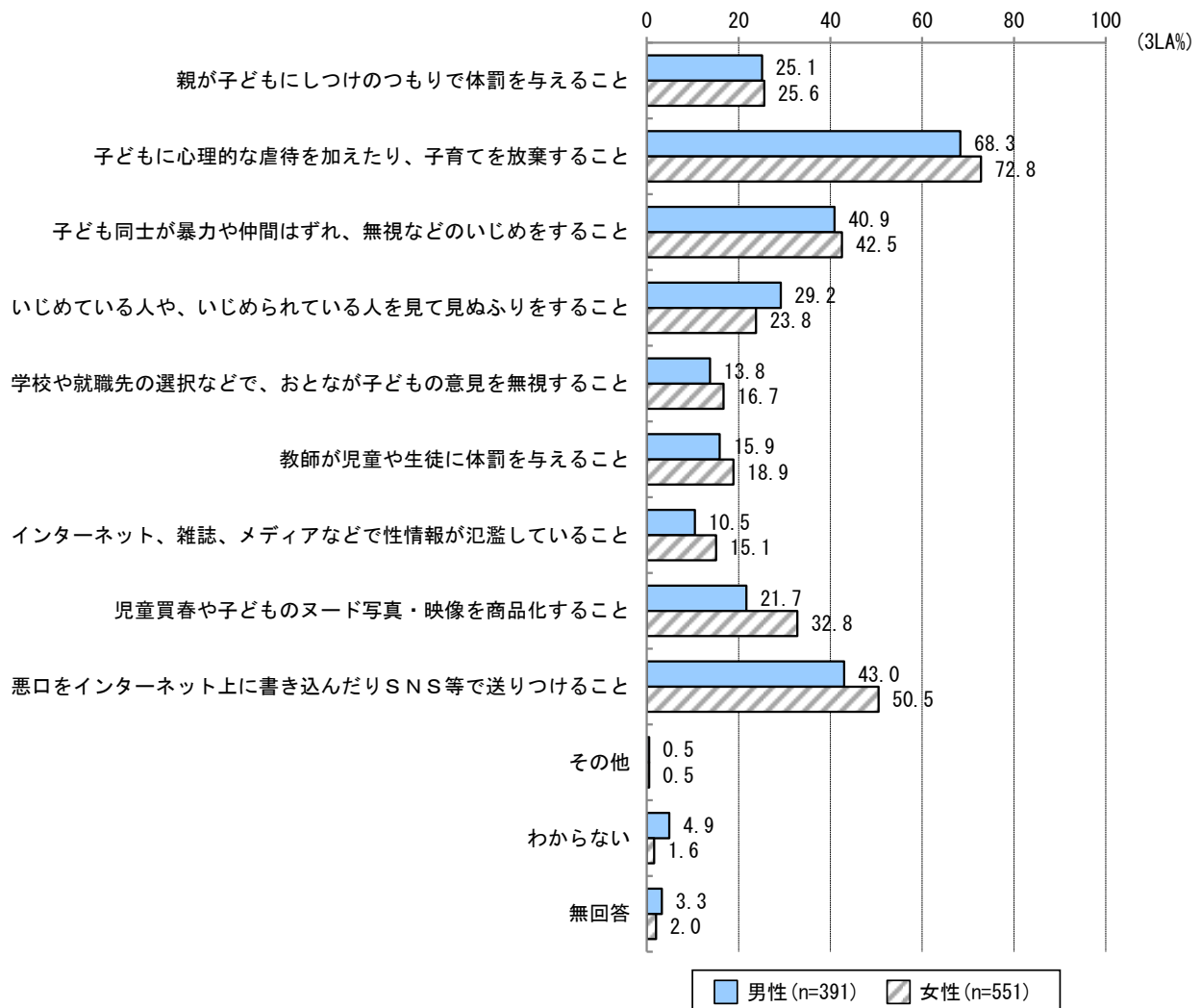
【図5-2 子どもの人権で特に問題があるもの（経年比較）】



子どもの人権で特に問題があるものについて、「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」が70.8%で最も多く、次いで「悪口をインターネット上に書き込んだりSNS等で送りつけること」が47.2%、「子ども同士が暴力や仲間はずれ、無視などのいじめをすること」が42.0%となっています。

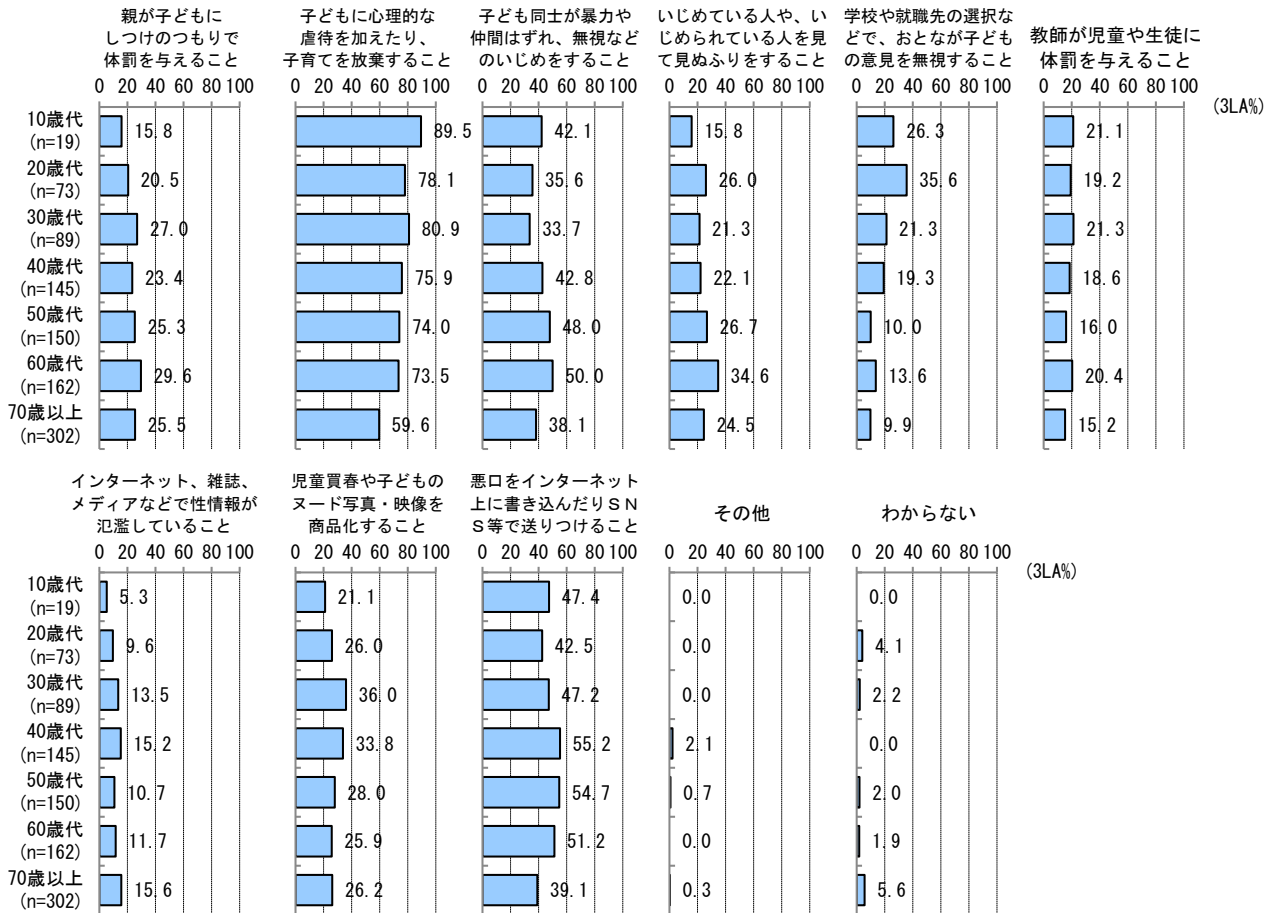
前回調査と比較すると、「悪口をインターネット上に書き込んだりSNS等で送りつけること」が14.1ポイント、「教師が児童や生徒に体罰を与えること」が13.5ポイント、「子ども同士が暴力や仲間はずれ、無視などのいじめをすること」が10.7ポイント、「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」が7.6ポイント高くなっています。一方、「インターネット、雑誌、メディアなどで性情報が氾濫していること」は7.1ポイント、「いじめている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」は6.8ポイント低くなっています。（図5-2）

【図5-2-1 子どもの人権で特に問題があるもの（性別）】



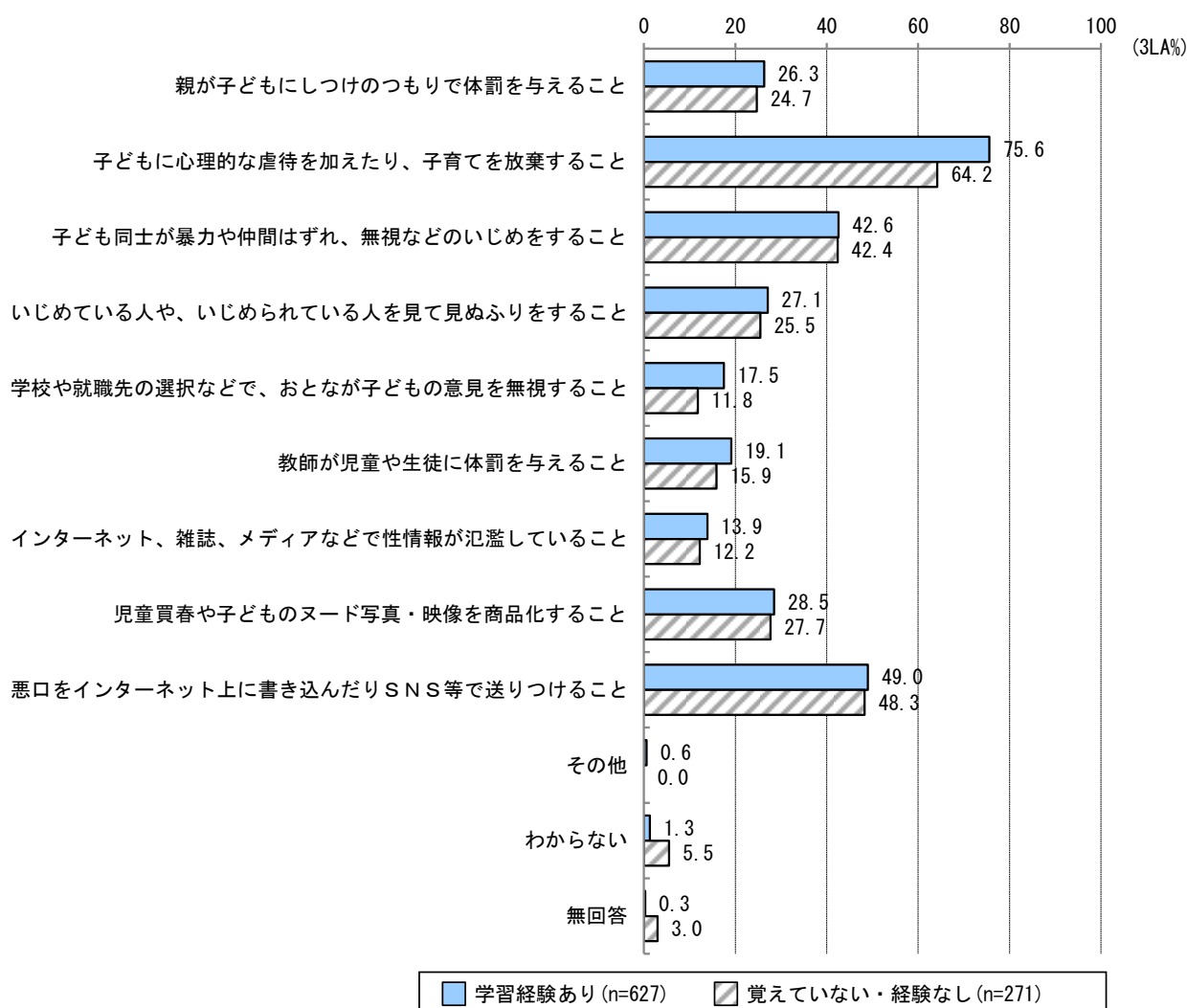
性別でみると、「いじめている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする人」では、男性が女性より5.4ポイント高い割合になっています。それ以外の項目では、女性のほうが高い割合になっており、なかでも「児童買春や子どものヌード写真・映像を商品化すること」は11.1ポイント差となっています。（図5-2-1）

【図5-2-2 子どもの人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、若い年代ほど「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」と「学校や就職先の選択などで、おとなが子どもの意見を無視すること」の割合が高くなる傾向にあります。一方、高齢になるほど「子ども同士が暴力や仲間はずれ、無視などのいじめをすること」と「いじめている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」との割合が高くなる傾向にあります。また、「悪口をインターネット上に書き込んだりSNS等を送りつけること」では、40歳代から60歳代の各年代が50%台で他の年代と比べて高い割合になっています。(図5-2-2)

【図5-2-3 子どもの人権で特に問題があるもの（人権問題についての学習経験の有無別）】

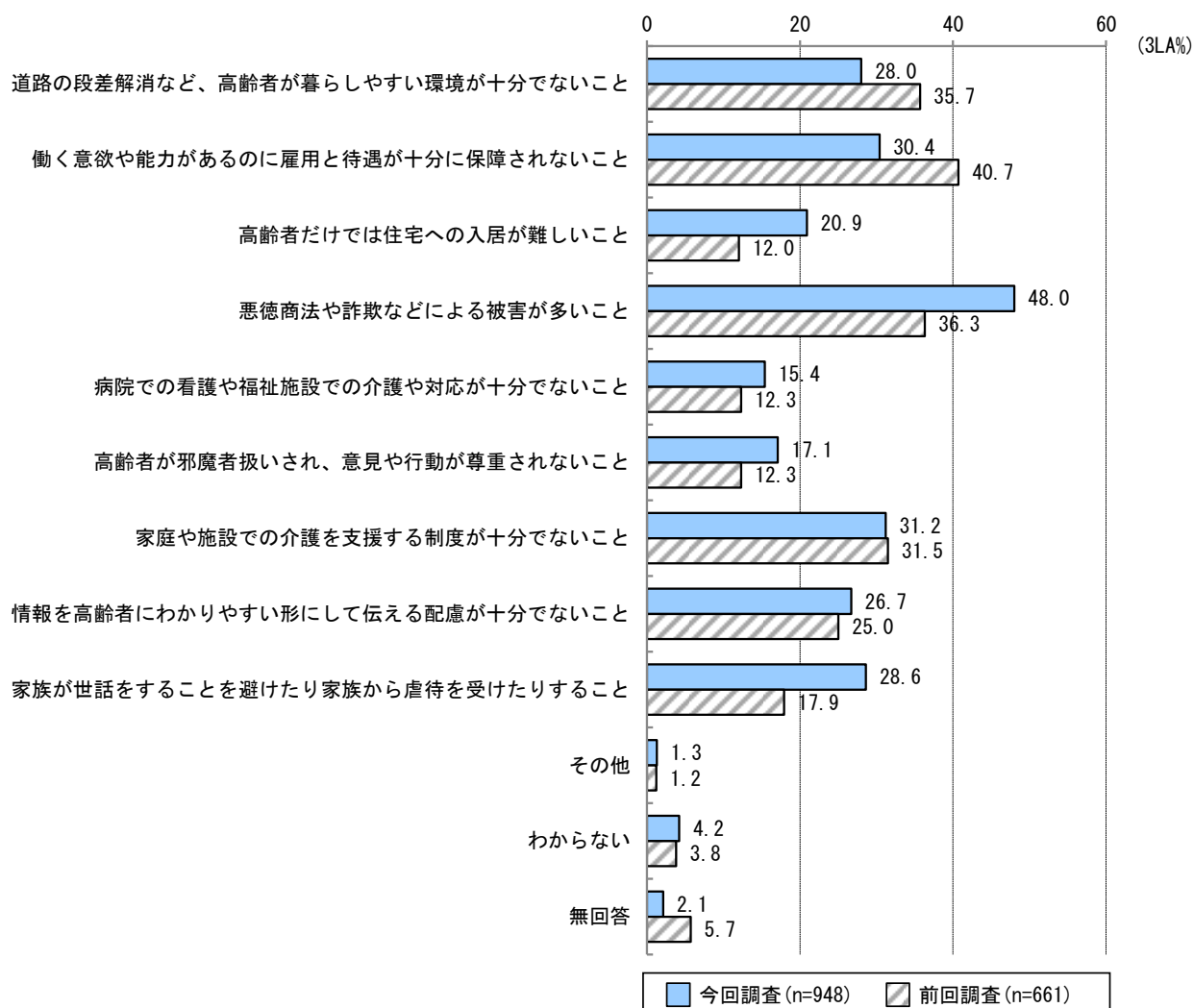


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人は、学習経験のない人と比べて「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」が11.4ポイント差、「学校や就職先の選択などで、おとなが子どもの意見を無視すること」が5.7ポイント差、「教師が児童や生徒に体罰を与えること」が3.2ポイント差で高い割合になっています。(図5-2-3)

（３）高齢者の人権で特に問題があるもの

問18 高齢者に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（○は3つまで）

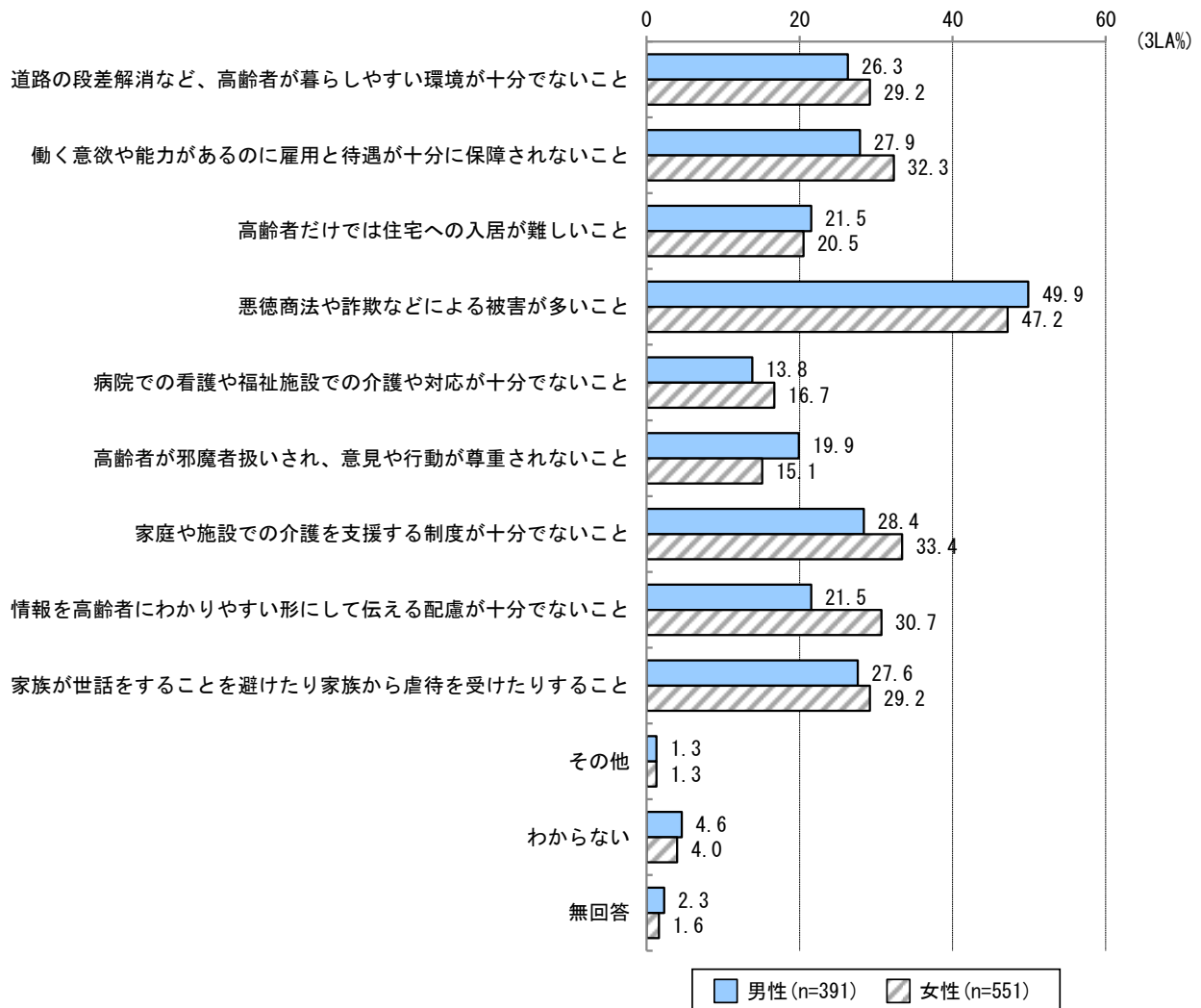
【図5-3 高齢者の人権で特に問題があるもの（経年比較）】



高齢者の人権で特に問題があるものについて、「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」が48.0%で最も多く、次いで「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が31.2%、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されないこと」が30.4%となっています。

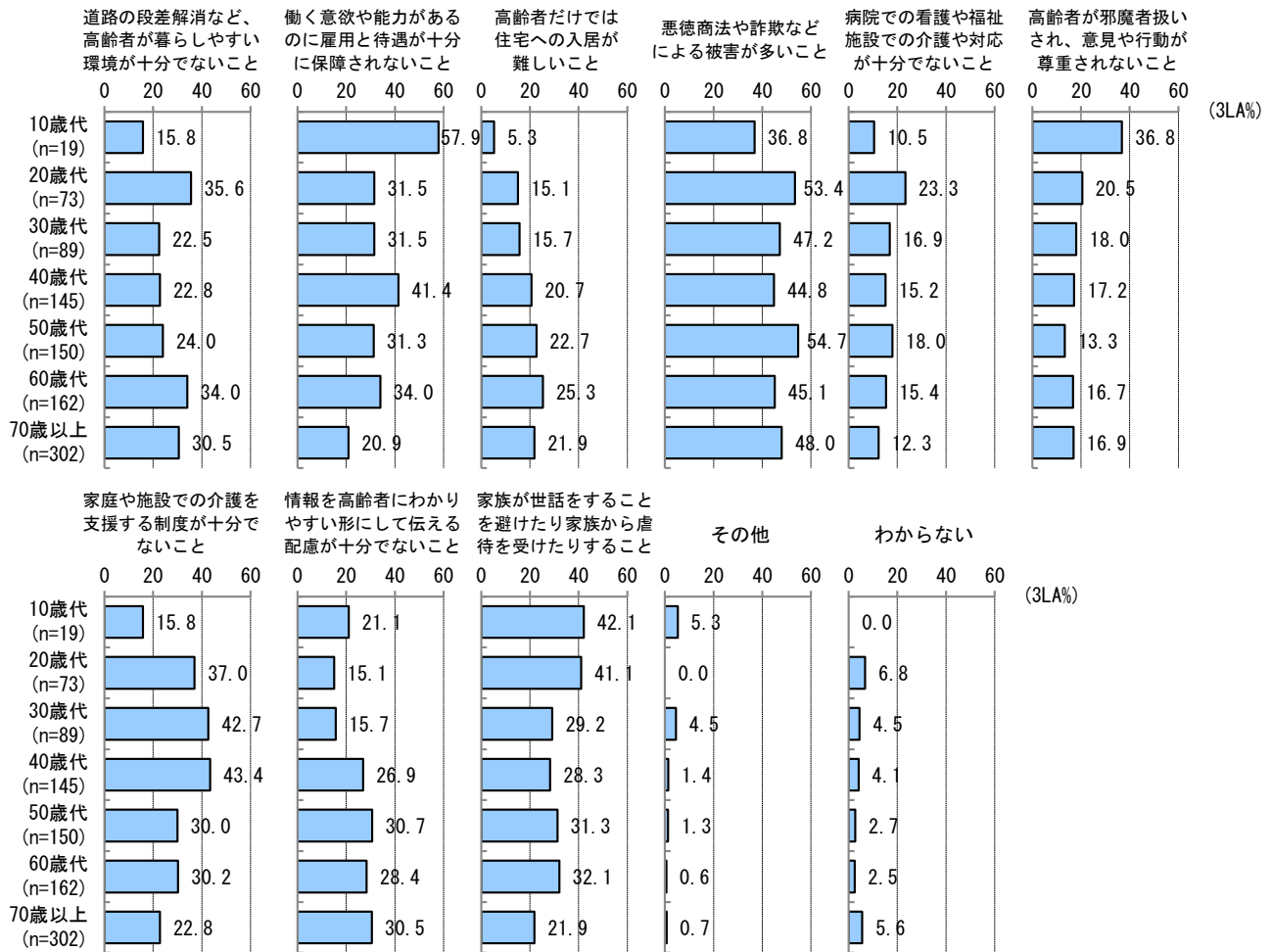
前回調査と比較すると、「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」が11.7ポイント、「家族が世話をすることを避けたり家族から虐待を受けたりすること」が10.7ポイント、「高齢者だけでは住宅への入居が難しいこと」が8.9ポイント高くなっています。一方、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されないこと」は10.3ポイント、「道路の段差解消など、高齢者が暮らしやすい環境が十分でないこと」は7.7ポイント低くなっています。（図5-3）

【図5-3-1 高齢者の人権で特に問題があるもの（性別）】



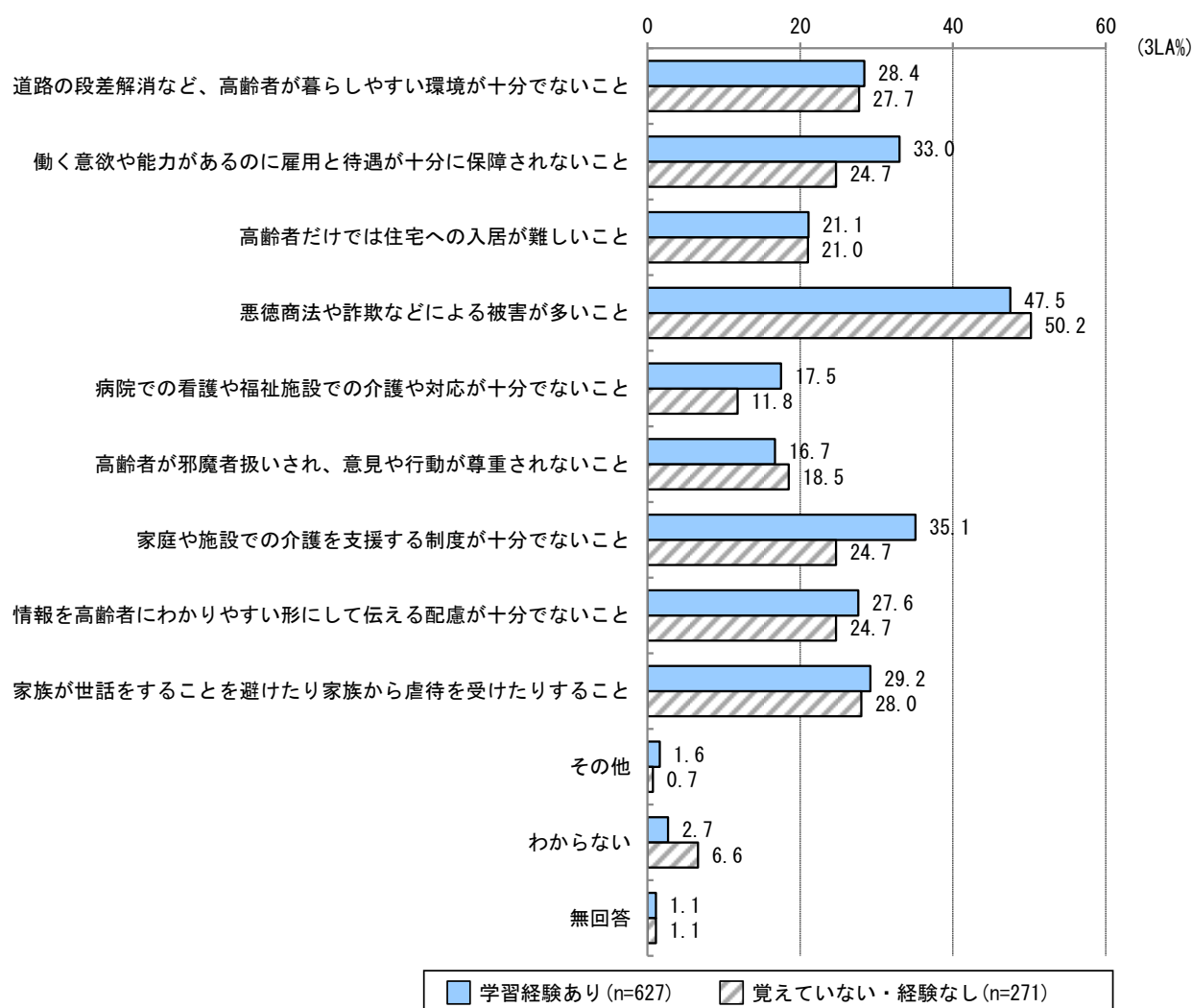
性別でみると、男性では「高齢者が邪魔者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと」が女性と比べて4.8ポイント高い割合になっています。一方、女性は男性と比べて「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が十分でないこと」が9.2ポイント差、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が5.0ポイント差、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されないこと」が4.4ポイント差で高い割合になっています。(図5-3-1)

【図5-3-2 高齢者の人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、高齢になるほど「高齢者だけでは住宅への入居が難しいこと」と「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が十分でないこと」の割合が高くなる傾向にあります。一方、若い年代ほど「病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと」の割合が高くなる傾向にあります。また、「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」では、20歳代から40歳代の各年代が、50歳以降の各年代と比べて高い割合になっています。（図5-3-2）

【図5-3-3 高齢者の人権で特に問題があるもの（人権問題についての学習経験の有無別）】

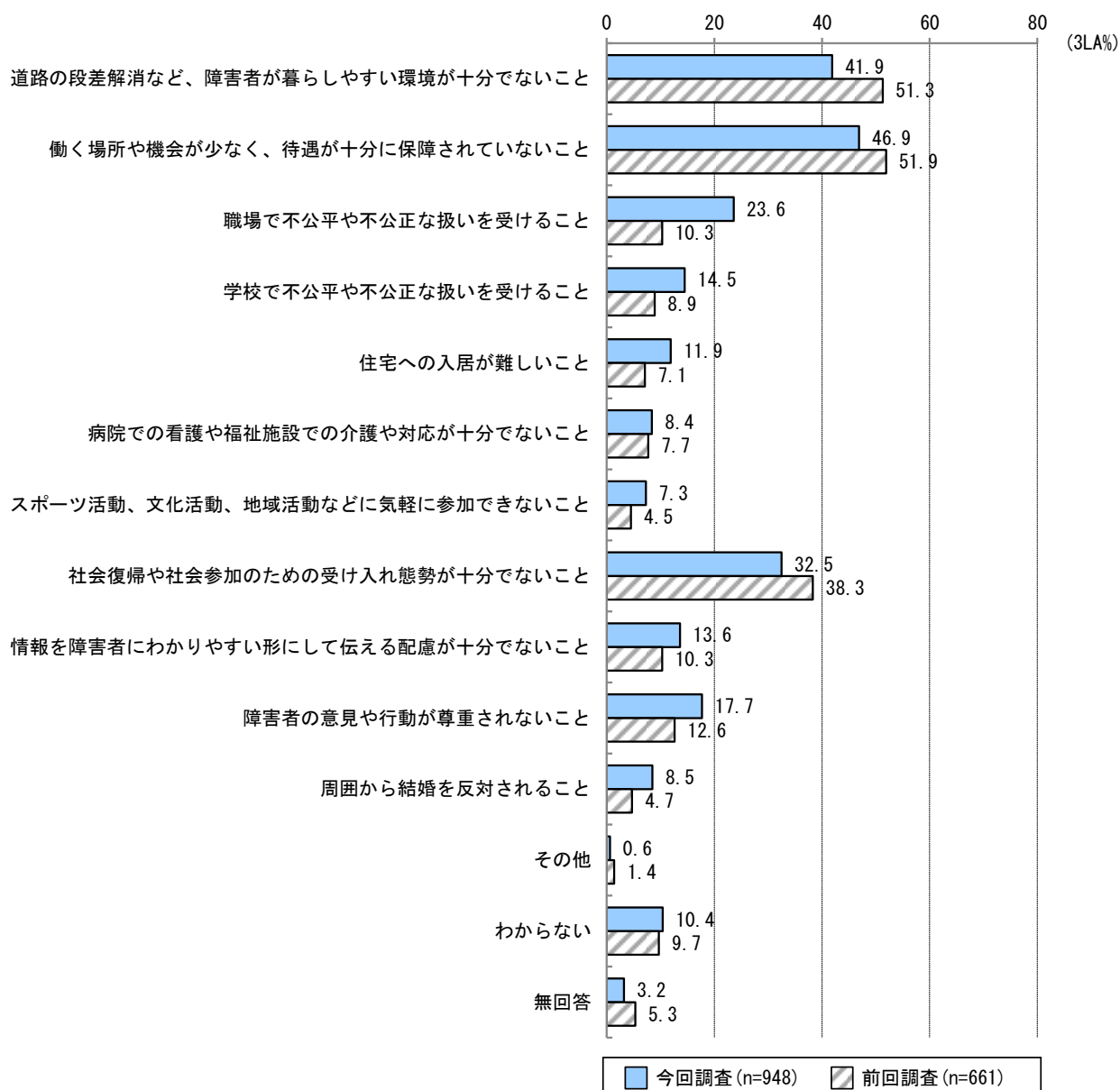


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合となっており、なかでも「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」が10.4ポイント差、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されないこと」が8.3ポイント差、「病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと」が5.7ポイント差となっています。(5-3-3)

(4) 障害者の人権で特に問題があるもの

問19 障害者に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

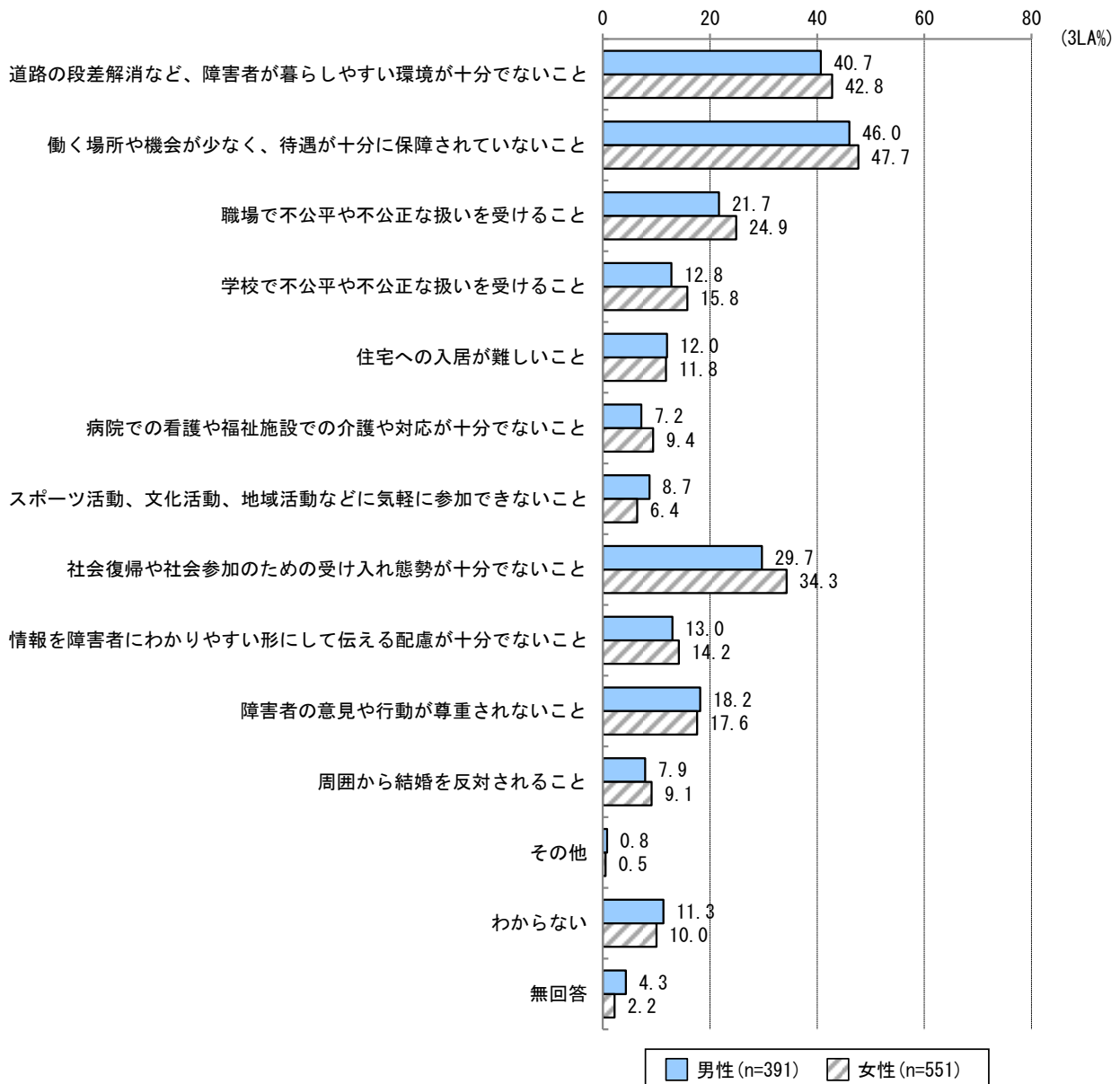
【図5-4 障害者の人権で特に問題があるもの（経年比較）】



障害者の人権で特に問題があるものについて、「働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと」が46.9%で最も多く、次いで「道路の段差解消など、障害者が暮らしやすい環境が十分でないこと」が41.9%、「社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと」が32.5%となっています。

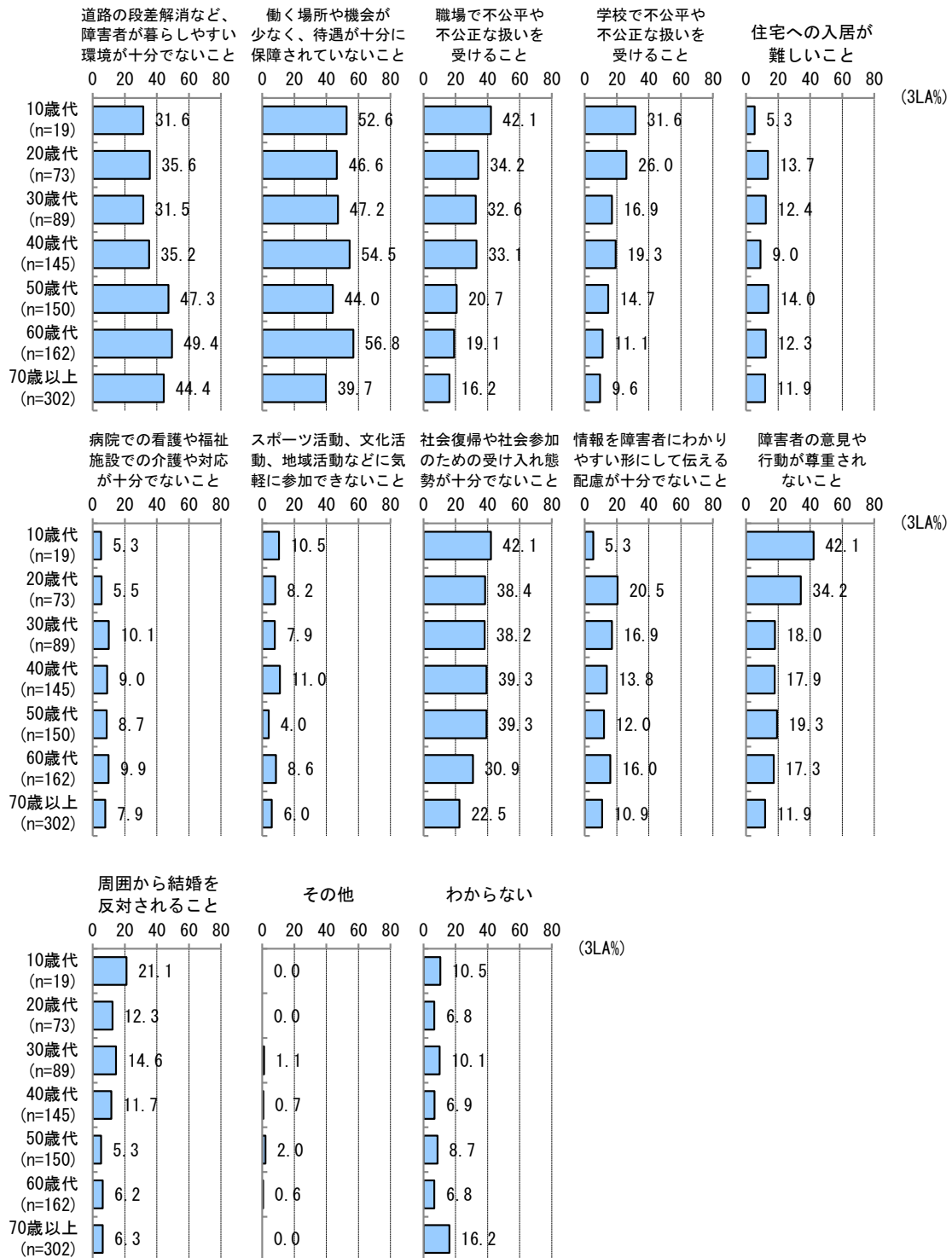
前回調査と比較すると、「職場で不公平や不公正な扱いを受けること」が13.3ポイント、「学校で不公平や不公正な扱いを受けること」が5.6ポイント、「障害者の意見や行動が尊重されないこと」が5.1ポイント高くなっています。一方、「道路や段差解消など、障害者が暮らしやすい環境が十分でないこと」は9.4ポイント、「社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと」は5.8ポイント、「働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと」は5.0ポイント低くなっています。(図5-4)

【図5-4-1 障害者の人権で特に問題があるもの（性別）】



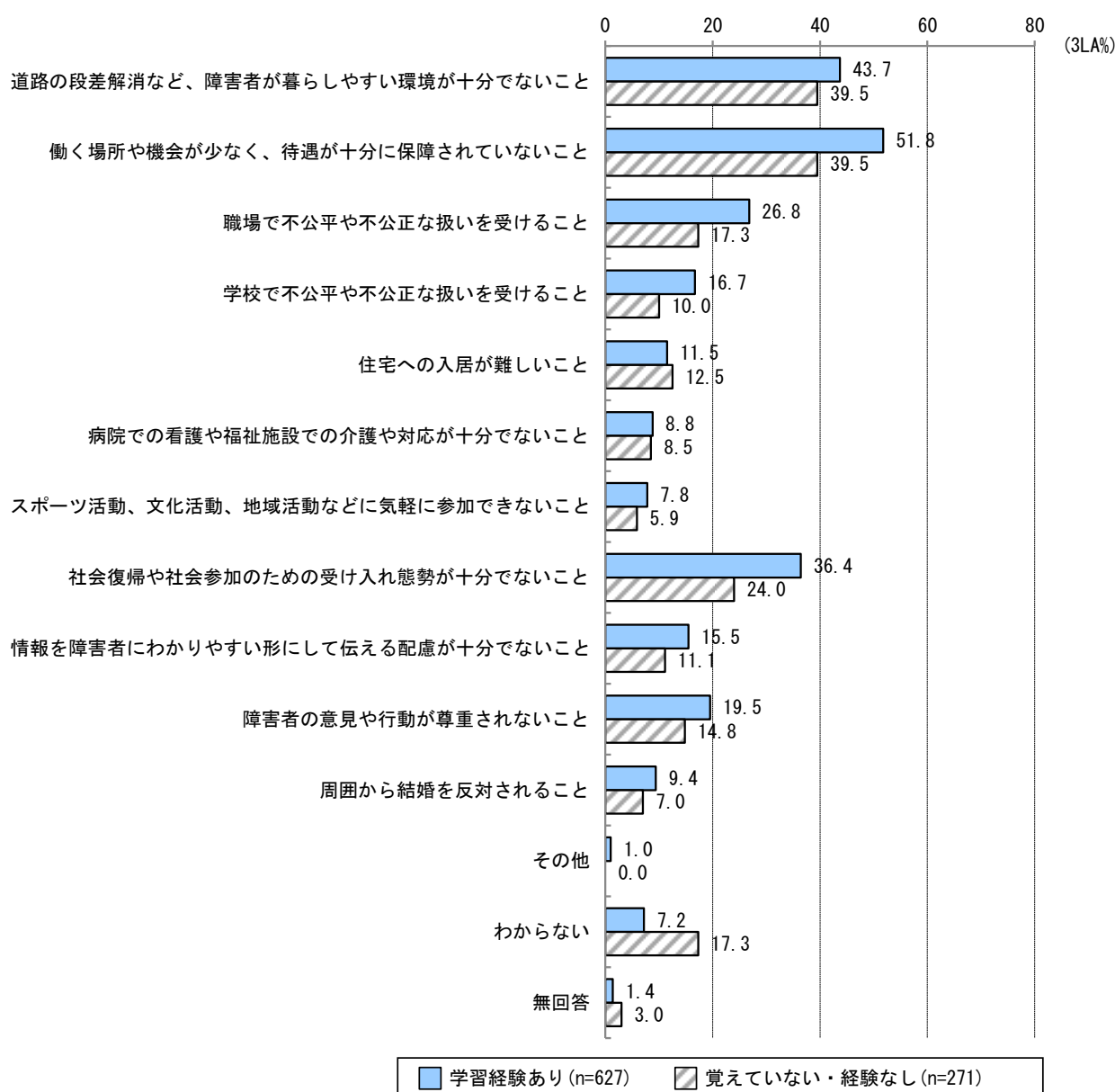
性別でみると、多くの項目で、女性が、男性と比べて高い割合になっており、なかでも「社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと」は4.6ポイント差となっています。（図5-4-1）

【図5-4-2 障害者の人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、若い年代ほど「職場で不公平や不公正な扱いを受けること」や「学校で不公平や不公正な扱いを受けること」、「情報を障害者にわかりやすい形にして伝える配慮が十分でないこと」、「周囲から結婚を反対されること」の割合が高くなる傾向にあります。また、20歳代では「障害者の意見や行動が尊重されないこと」が34.2%となっており、他の年代と比べて高い割合になっています。一方、50歳以降の各年代では「道路の段差解消など、障害者が暮らしやすい環境が十分でないこと」が40%台となっており、50歳未満の各年代と比べて高い割合になっています。（図5-4-2）

【図5-4-3 障害者の人権で特に問題があるもの（人権問題についての学習経験の有無別）】

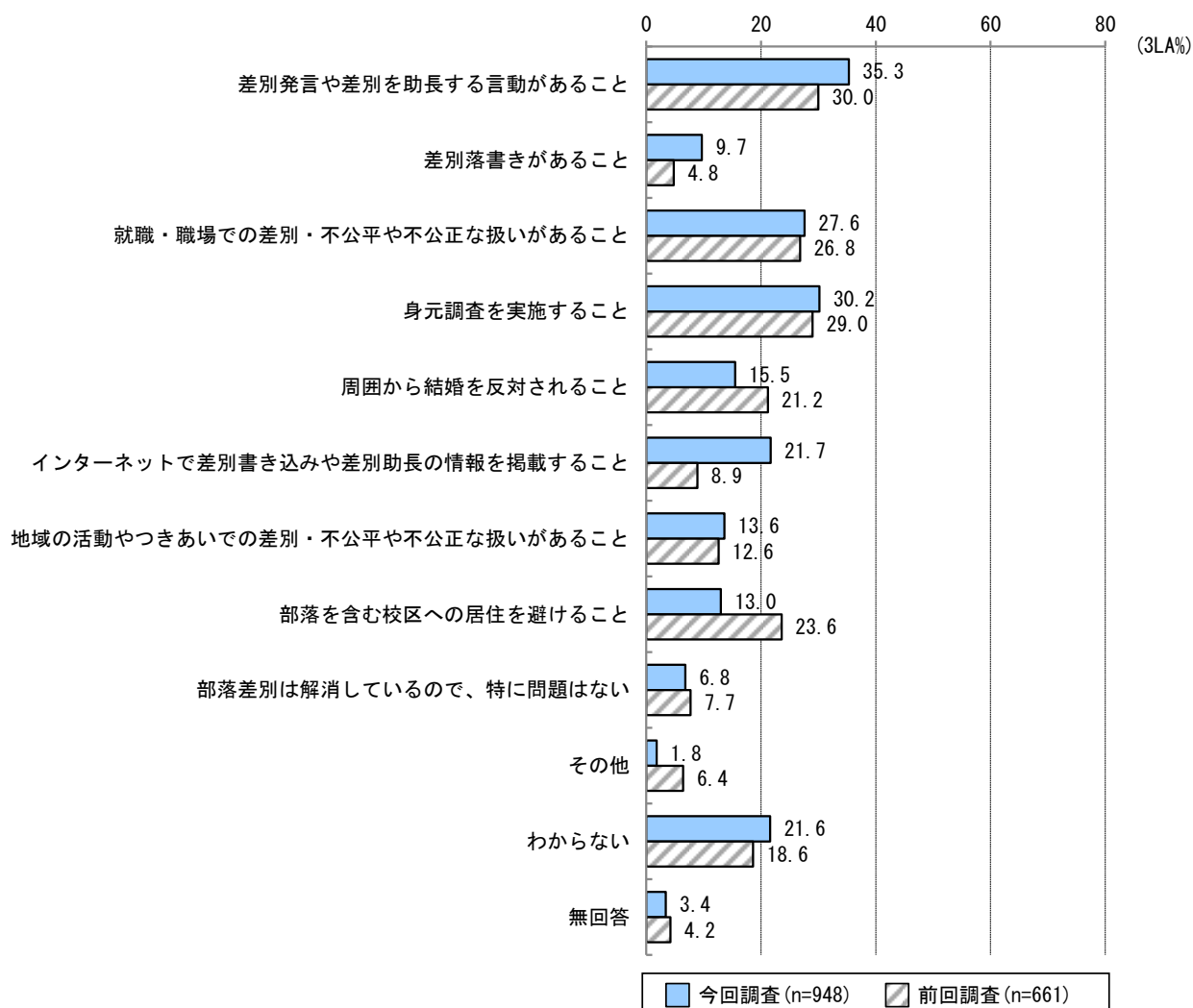


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合となる上位5項目は、「社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと」が12.4ポイント差、「働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと」が12.3ポイント差、「職場で不公平や不公正な扱いを受けること」が9.5ポイント差、「学校で不公平や不公正な扱いを受けること」が6.7ポイント差、「障害者の意見や行動が尊重されないこと」が4.7ポイント差となっています。一方、学習経験のない人は「わからない」が17.3%となっており、学習経験のある人（7.2%）と比べて10.1ポイント高い割合となっています。（図5-4-3）

（５）部落差別の人権で特に問題があるもの

問20 部落差別に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（○は3つまで）

【図5-5 部落差別の人権で特に問題があるもの（経年比較）】

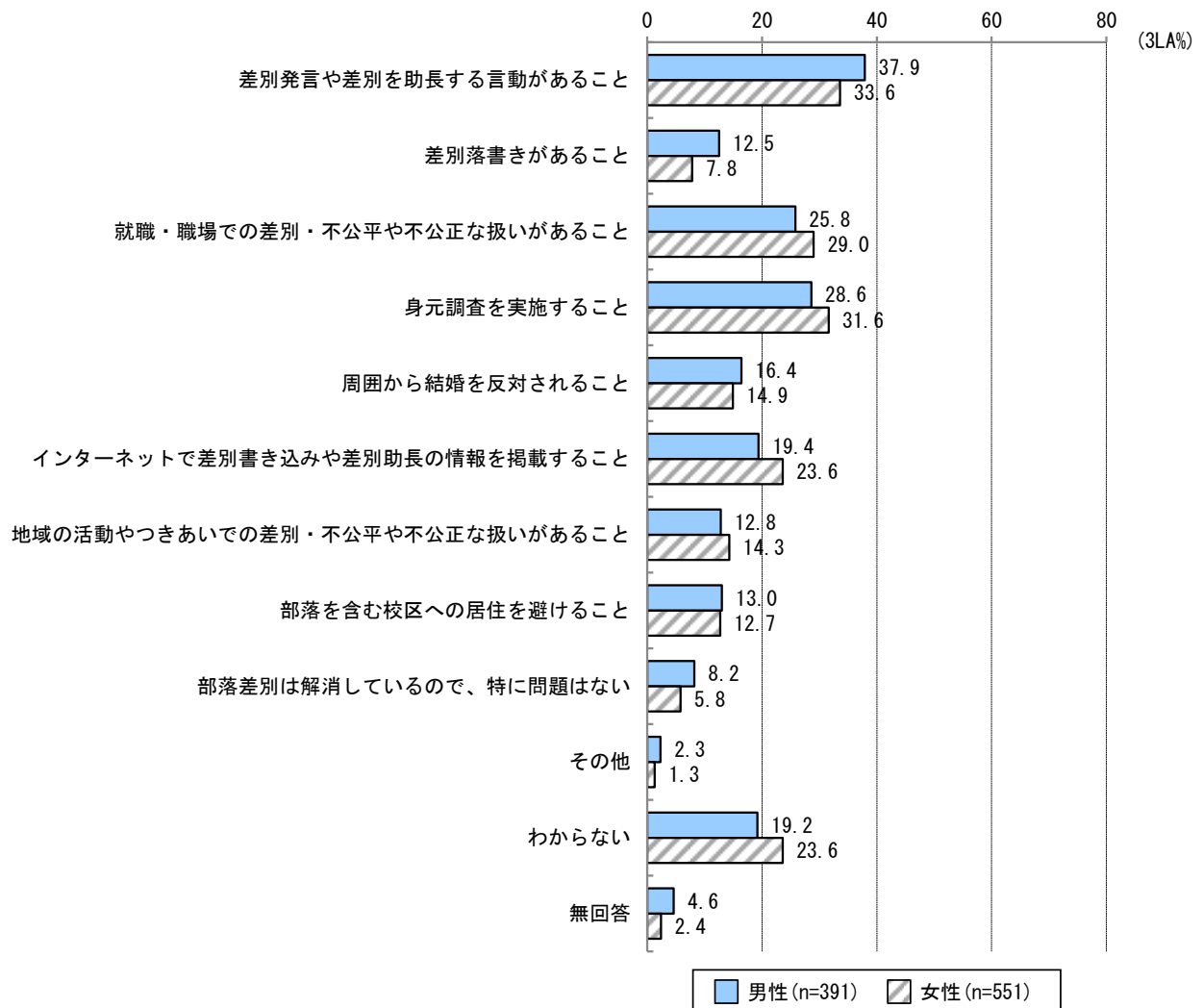


※前回調査では『同和問題に関する人権』についての設問。

部落差別の人権で特に問題があるものについて、「差別発言や差別を助長する言動があること」が35.3%で最も多く、次いで「身元調査を実施すること」が30.2%、「就職・職場での差別・不公平や不公正な扱いがあること」が27.6%となっています。一方、「わからない」は21.6%となっています。

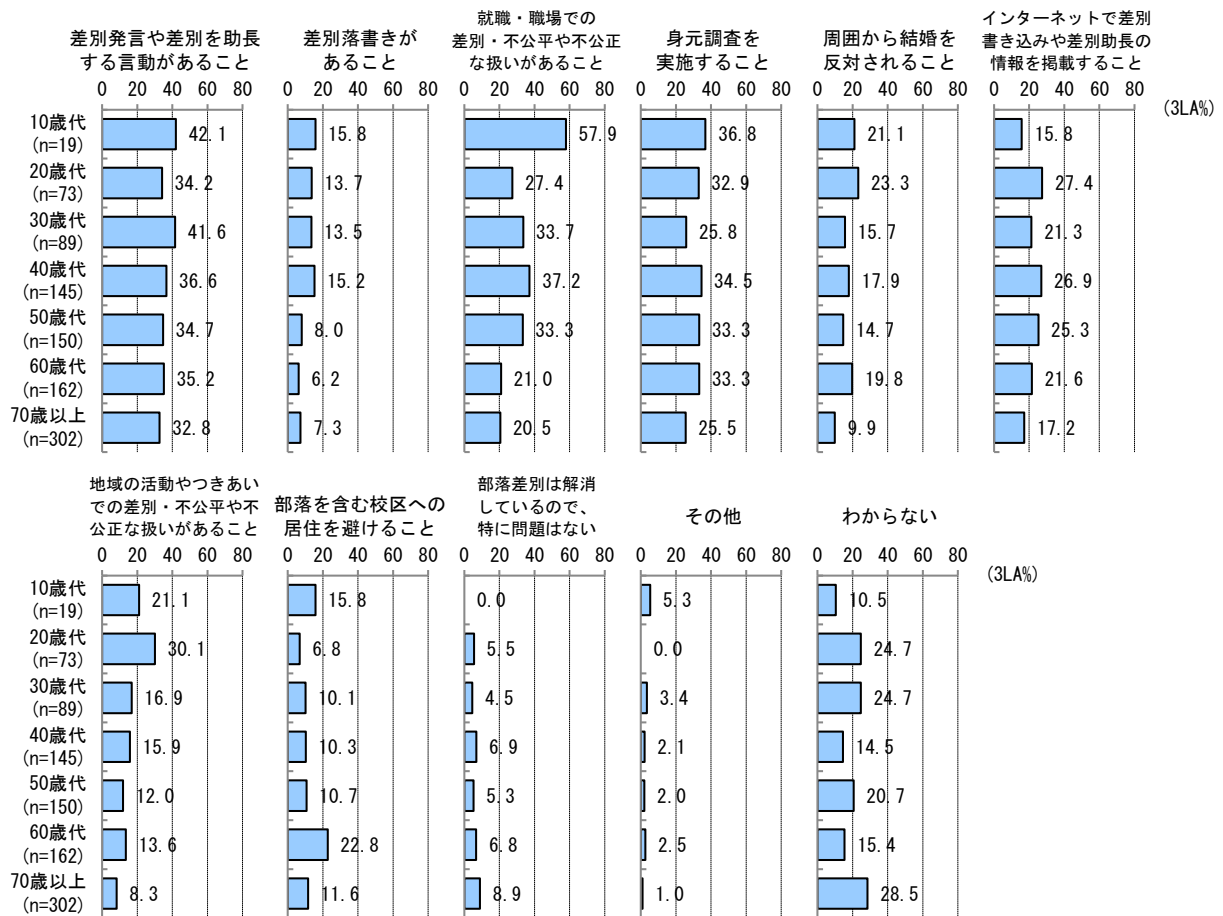
前回調査と比較すると、「インターネットで差別書き込みや差別助長の情報を掲載すること」が12.8ポイント、「差別発言や差別を助長する言動があること」が5.3ポイント、「差別落書きがあること」が4.9ポイント高くなっています。一方、「部落を含む校区への居住を避けること（前回調査では「同和地区や同和地区を含む小学校区域、中学校区域への居住を敬遠すること」）」は10.6ポイント、「周囲から結婚を反対されること」は5.7ポイント低くなっています。また、「わからない」では3.0ポイント高くなっています。（図5-5）

【図5-5-1 部落差別の人権で特に問題があるもの（性別）】



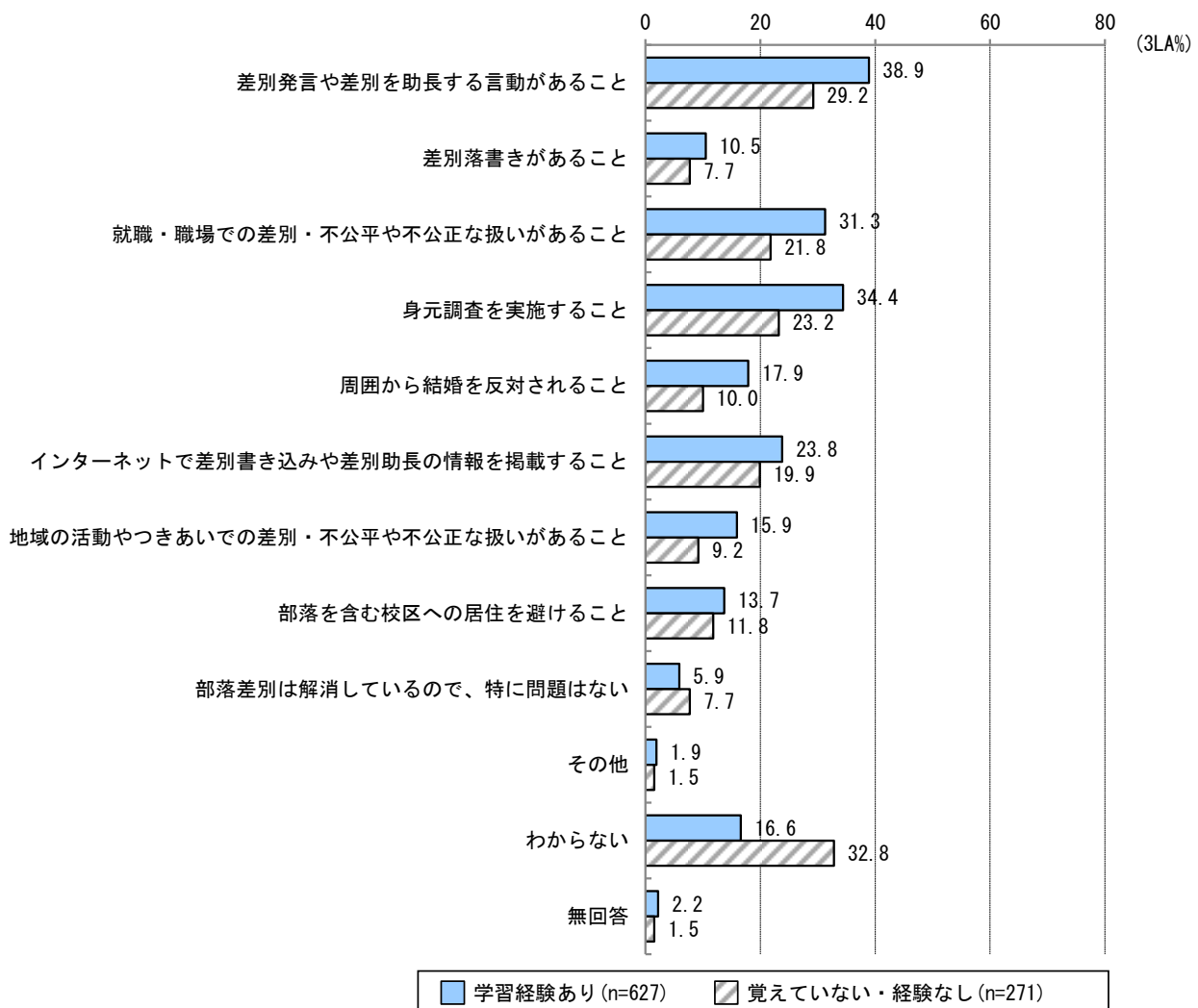
性別でみると、男性は女性と比べて「差別落書きがあること」が4.7ポイント差、「差別発言や差別を助長する言動があること」が4.3ポイント差で高い割合になっています。一方、女性では「インターネットで差別書き込みや差別助長の情報を掲載すること」が男性と比べて4.2ポイント高い割合になっています。（図5-5-1）

【図5-5-2 部落差別の人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、若い年代ほど「インターネットで差別書き込みや差別助長の情報を掲載すること」と「地域の活動やつきあいでの差別・不公平や不公正な扱いがあること」の割合が高くなる傾向にあります。また、20歳代では「地域の活動やつきあいでの差別・不公平や不公正な扱いがあること」が、30歳代から50歳代の各年代では「就職・職場での差別・不公平や不公正な扱いがあること」が、60歳代では「部落を含む校区への居住を避けること」が、それぞれ他の年代と比べて高い割合になっています。（図5-5-2）

【図5-5-3 部落差別の人権で特に問題があるもの（人権問題についての学習経験の有無別）】

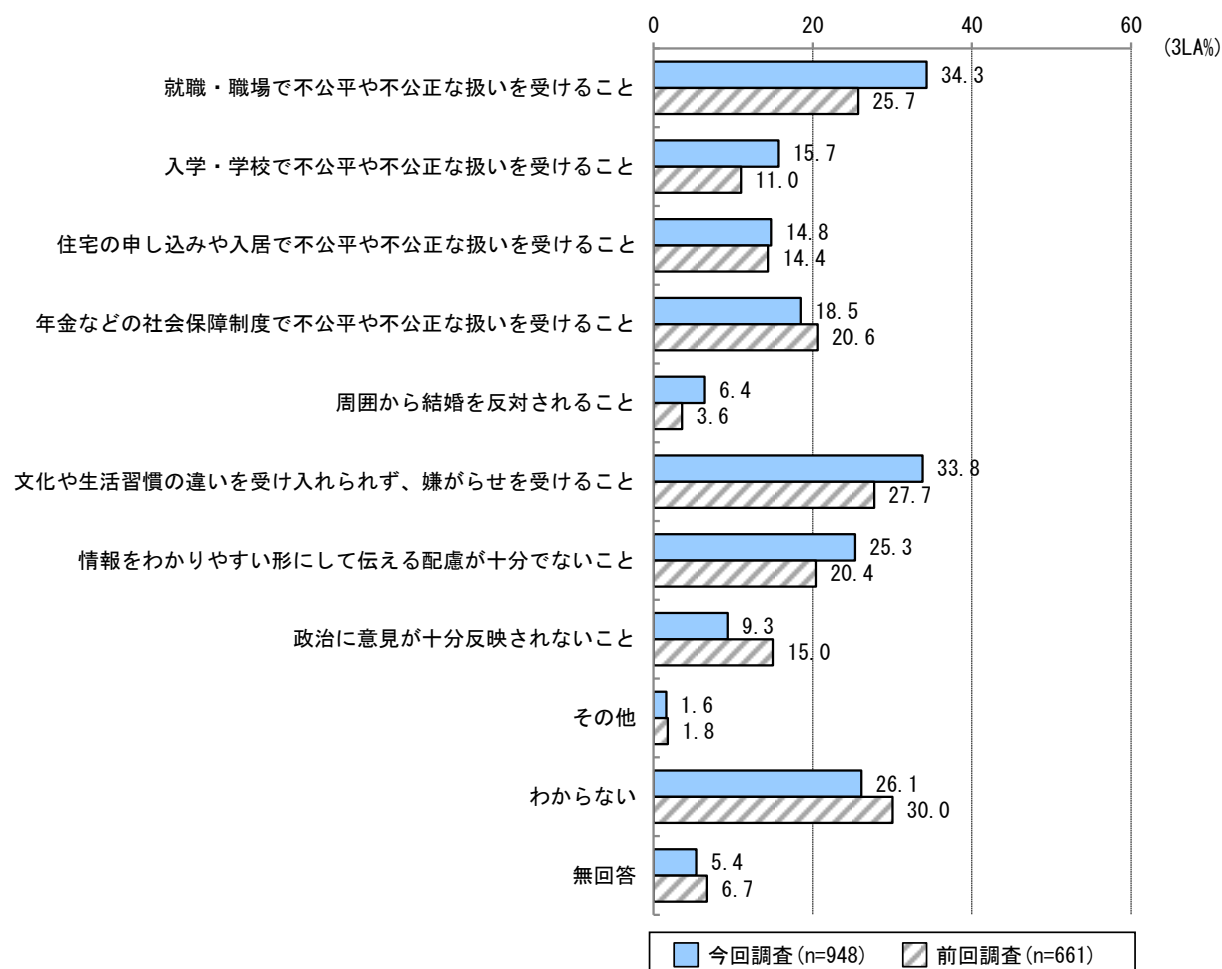


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合となる上位5項目は、「身元調査を実施すること」が11.2ポイント差、「差別発言や差別を助長する言動があること」が9.7ポイント差、「就職・職場での差別・不公平や不公正な扱いがあること」が9.5ポイント差、「周囲から結婚を反対されること」が7.9ポイント差、「地域の活動やつきあいで差別・不公平や不公正な扱いがあること」が6.7ポイント差となっています。一方、学習経験のない人では「わからない」が32.8%となっており、学習経験のある人（16.6%）と比べて16.2ポイント高い割合になっています。（図5-5-3）

（６）在日外国人の人権で特に問題があるもの

問21 日本に居住している外国人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（〇は3つまで）

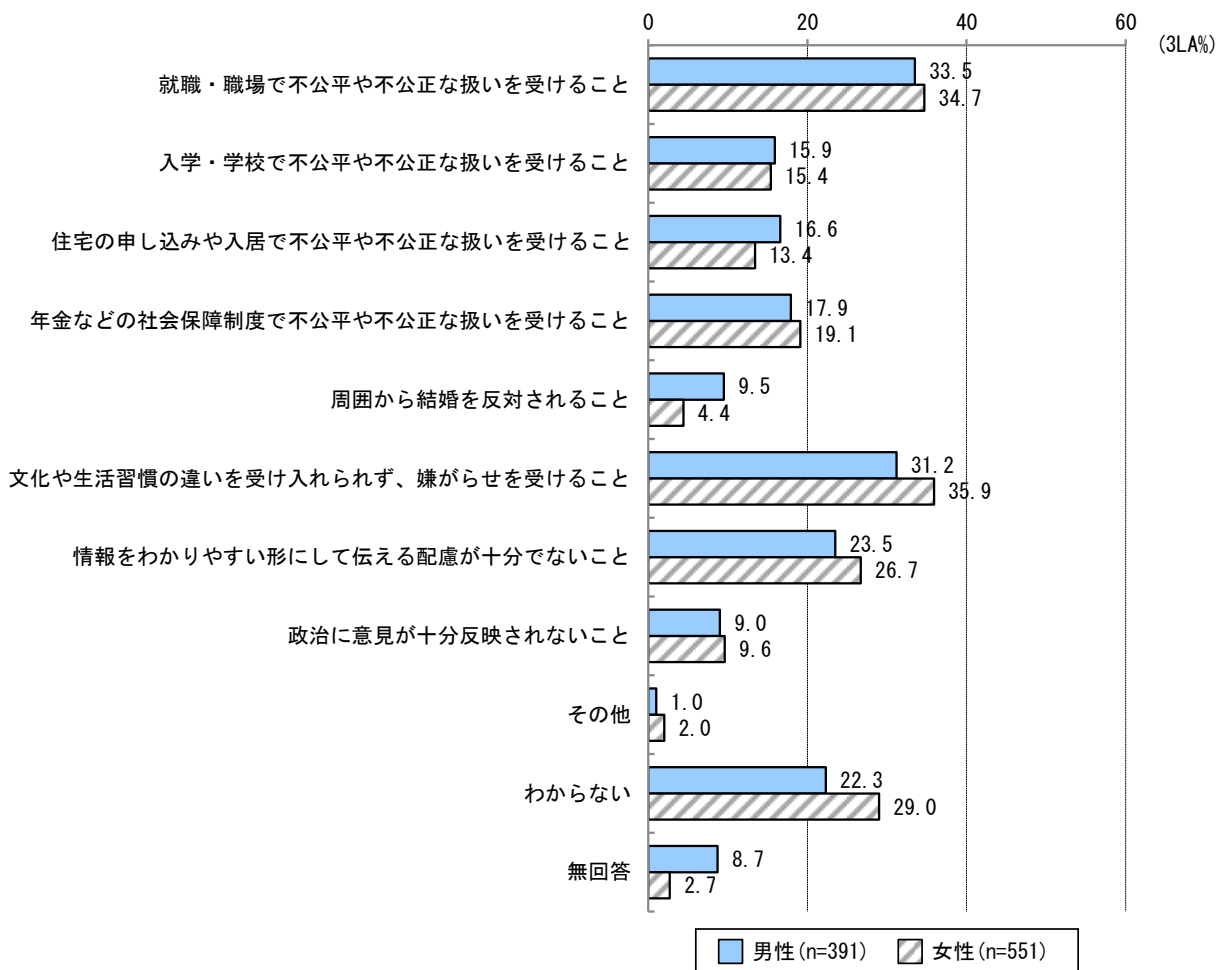
【図5-6 在日外国人の人権で特に問題があるもの（経年比較）】



在日外国人の人権で特に問題があるものについて、「就職・職場で不公平や不公正な扱いを受けること」が34.3%で最も多く、次いで「文化や生活習慣の違いを受け入れられず、嫌がらせを受けること」が33.8%、「わからない」が26.1%、「情報をわかりやすい形にして伝える配慮が十分でないこと」が25.3%となっています。

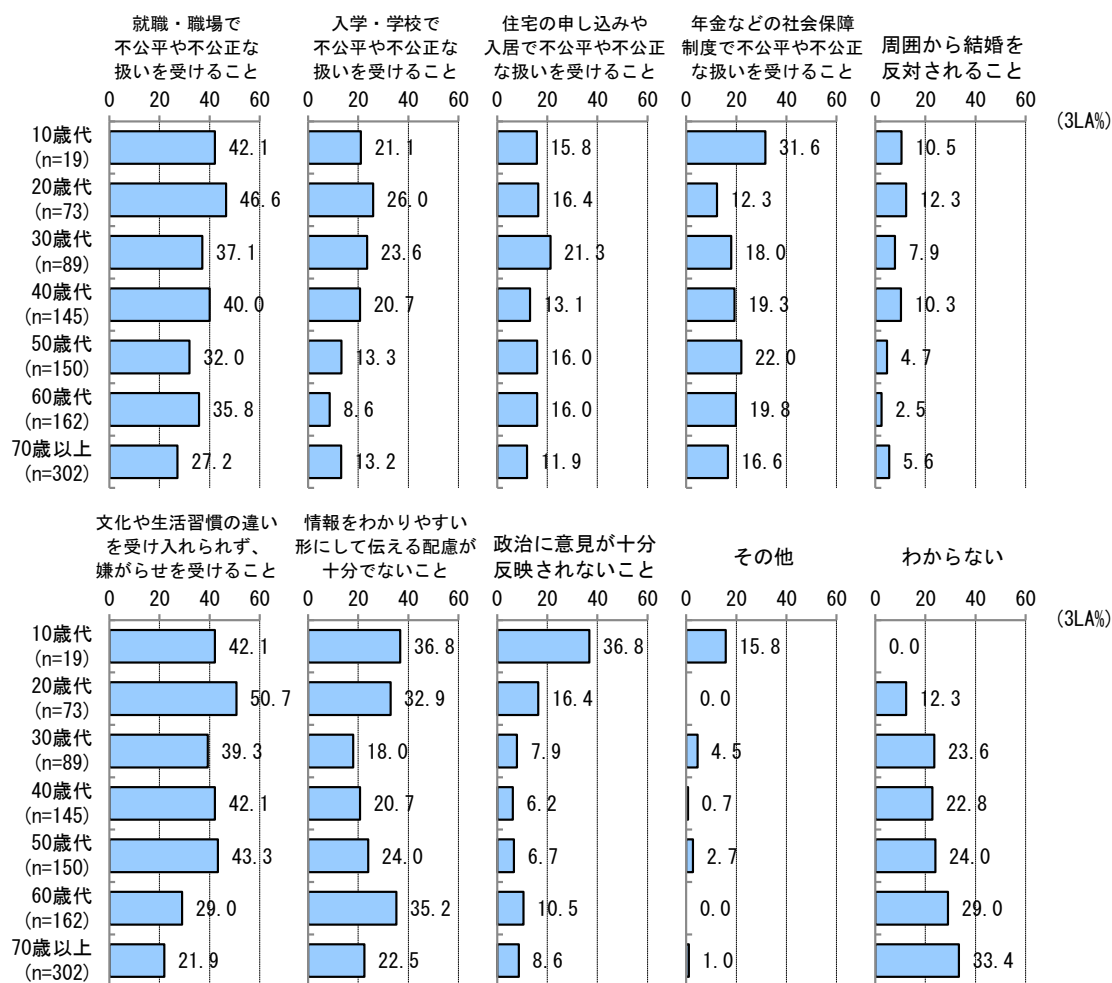
前回調査と比較すると、「就職・職場で不公平や不公正な扱いを受けること」が8.6ポイント、「文化や生活習慣の違いを受け入れられず、嫌がらせを受けること」が6.1ポイント、「情報をわかりやすい形にして伝える配慮が十分でないこと」が4.9ポイント、「入学・学校で不公平や不公正な扱いを受けること」が4.7ポイント高くなっています。一方、「政治に意見が十分反映されないこと」は5.7ポイント低くなっています。（図5-6）

【図5-6-1 在日外国人の人権で特に問題があるもの（性別）】



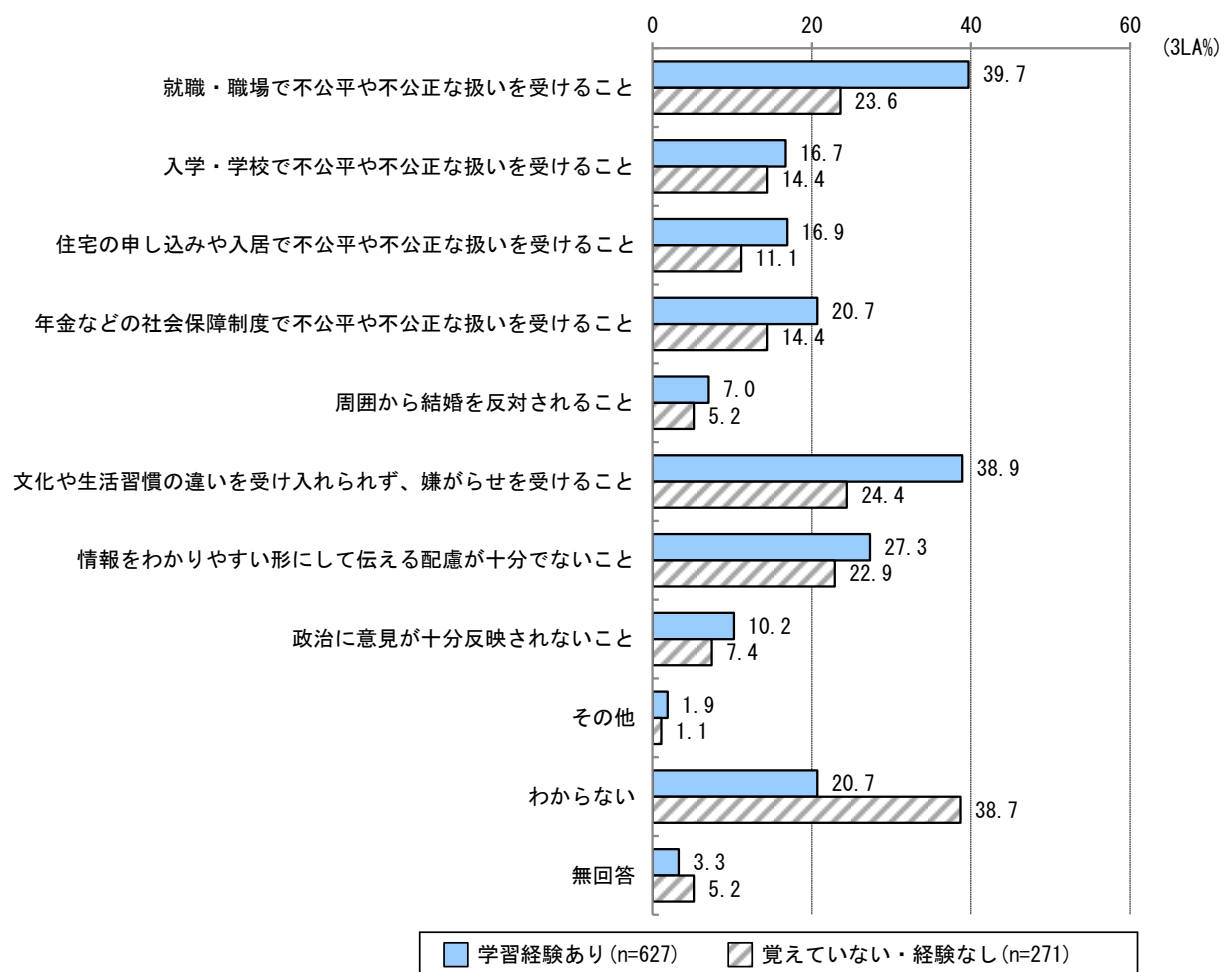
性別でみると、男性は女性と比べて「周囲から結婚を反対されること」が5.1ポイント差、「住宅の申し込みや入居で不公平や不公正な扱いを受ける」が3.2ポイント差で高い割合になっています。一方、女性は男性と比べて「文化や生活習慣の違いを受け入れられず、嫌がらせを受けること」が4.7ポイント差、「情報をわかりやすい形にして伝える配慮が十分でないこと」が3.2ポイント差で高い割合になっています。（図5-6-1）

【図5-6-2 在日外国人の人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、若い年代ほど「就職・職場で不公平や不公正な扱いを受けること」と「入学・学校で不公平や不公正な扱いを受けること」の割合が高くなる傾向にあります。一方、高齢になるほど「わからない」の割合が高くなっています。（図5-6-2）

【図5-6-3 在日外国人の人権で特に問題があるもの（人権問題についての学習経験の有無別）】

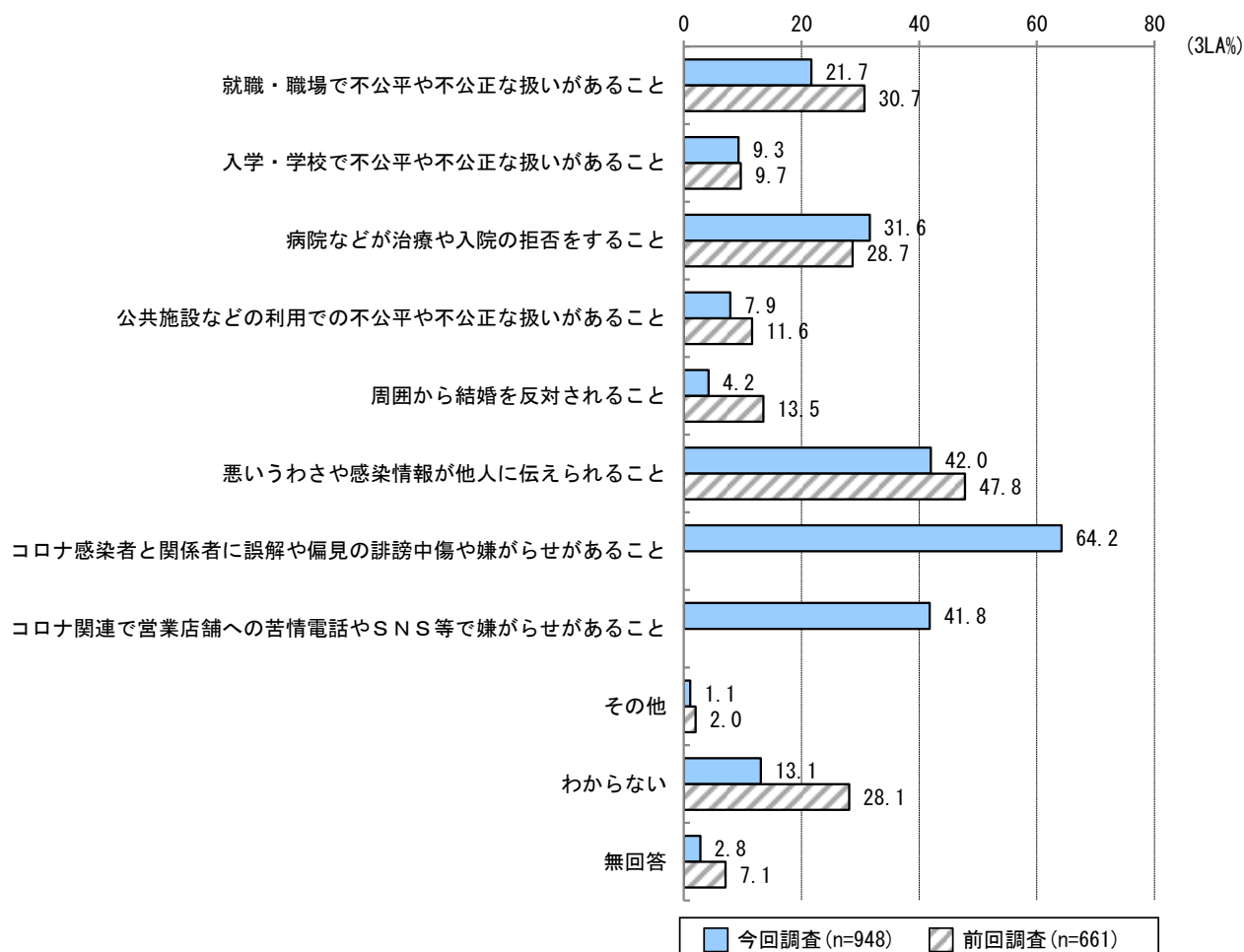


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合となる上位5項目は、「就職・職場で不公平や不公正な扱いを受けること」が16.1ポイント差、「文化や生活習慣の違いを受け入れられず、嫌がらせを受けること」が14.5ポイント差、「年金などの社会保障制度で不公平や不公正な扱いを受けること」が6.3ポイント差、「住宅の申し込みや入居で不公平や不公正な扱いを受けること」が5.8ポイント差、「情報をわかりやすい形にして伝える配慮が十分でないこと」が4.4ポイント差となっています。一方、学習経験のない人では「わからない」が38.7%となっており、学習経験のある人（20.7%）と比べて18.0ポイント高い割合になっています。（図5-6-3）

(7) HIV感染者やハンセン病回復者等の人権で特に問題があるもの

問22 HIV感染者やハンセン病回復者、新型コロナウイルス感染者等に関する事で、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【図5-7 HIV感染者やハンセン病回復者等の人権で特に問題があるもの（経年比較）】



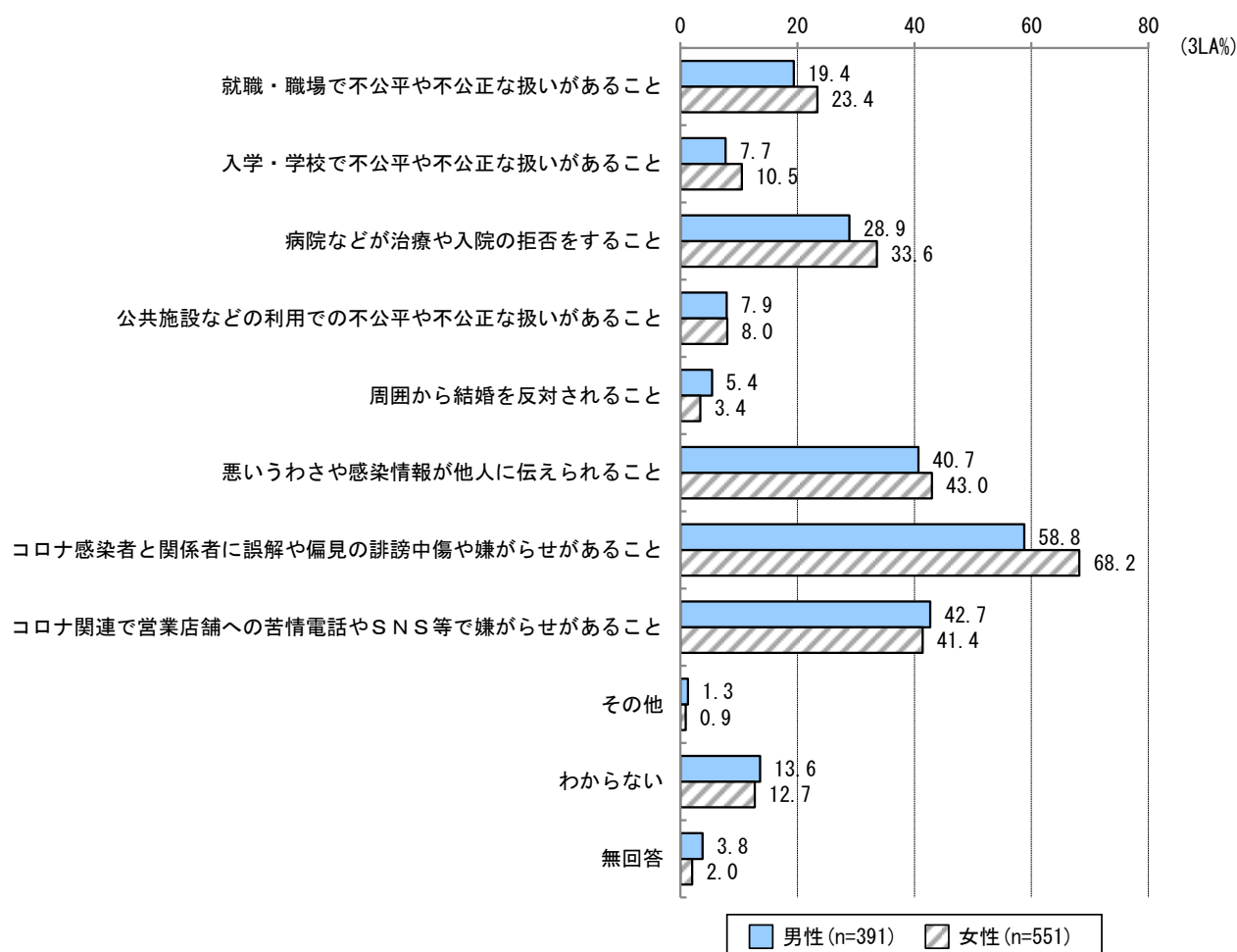
※「コロナ感染者と関係者に誤解や偏見の誹謗中傷や嫌がらせがあること」

「コロナ関連で営業店舗への苦情電話やSNS等で嫌がらせがあること」は、今回調査の新規項目。

HIV感染者やハンセン病回復者、新型コロナウイルス感染者等の人権で特に問題があるものについて、「コロナ感染者と関係者に誤解や偏見の誹謗中傷や嫌がらせがあること」が64.2%で最も多く、次いで「悪いうわさや感染情報が他人に伝えられること」が42.0%、「コロナ関連で営業店舗への苦情電話やSNS等で嫌がらせがあること」が41.8%となっています。

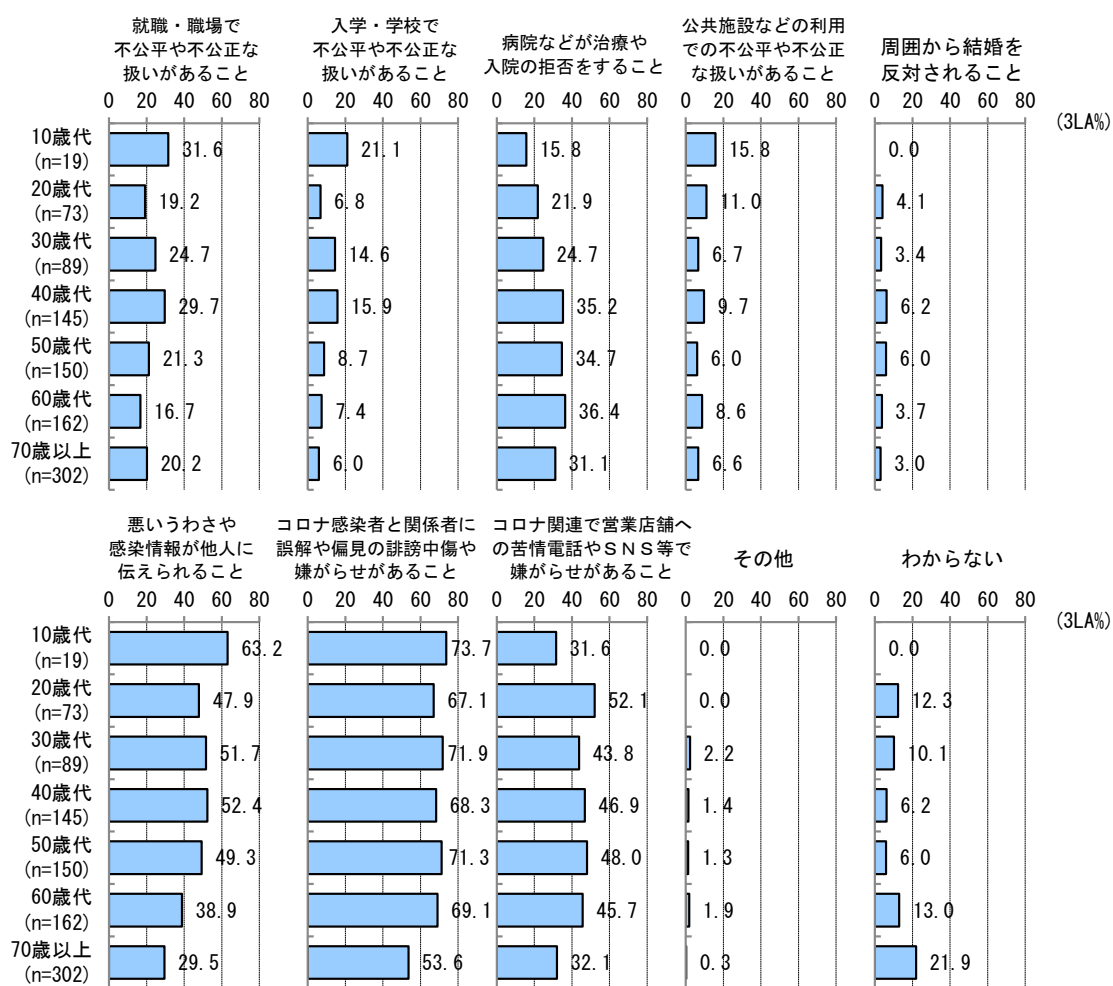
前回調査と比較すると、「わからない」が15.0ポイント低くなっています。また、「周囲から結婚を反対されること」は9.3ポイント、「就職・職場で不公平や不公正な扱いがあること」は9.0ポイント、「悪いうわさや感染情報が他人に伝えられること」は5.8ポイント低くなっています。(図5-7)

【図5-7-1 HIV感染者やハンセン病回復者等の人権で特に問題があるもの（性別）】



性別でみると、多くの項目で、女性が、男性と比べて高い割合になっており、なかでも「コロナ感染者と関係者に誤解や偏見の誹謗中傷や嫌がらせがあること」が9.4ポイント差、「病院などが治療や入院の拒否をすること」が4.7ポイント差、「就職・職場で不公平や不公正な扱いがあること」が4.0ポイント差となっています。（図5-7-1）

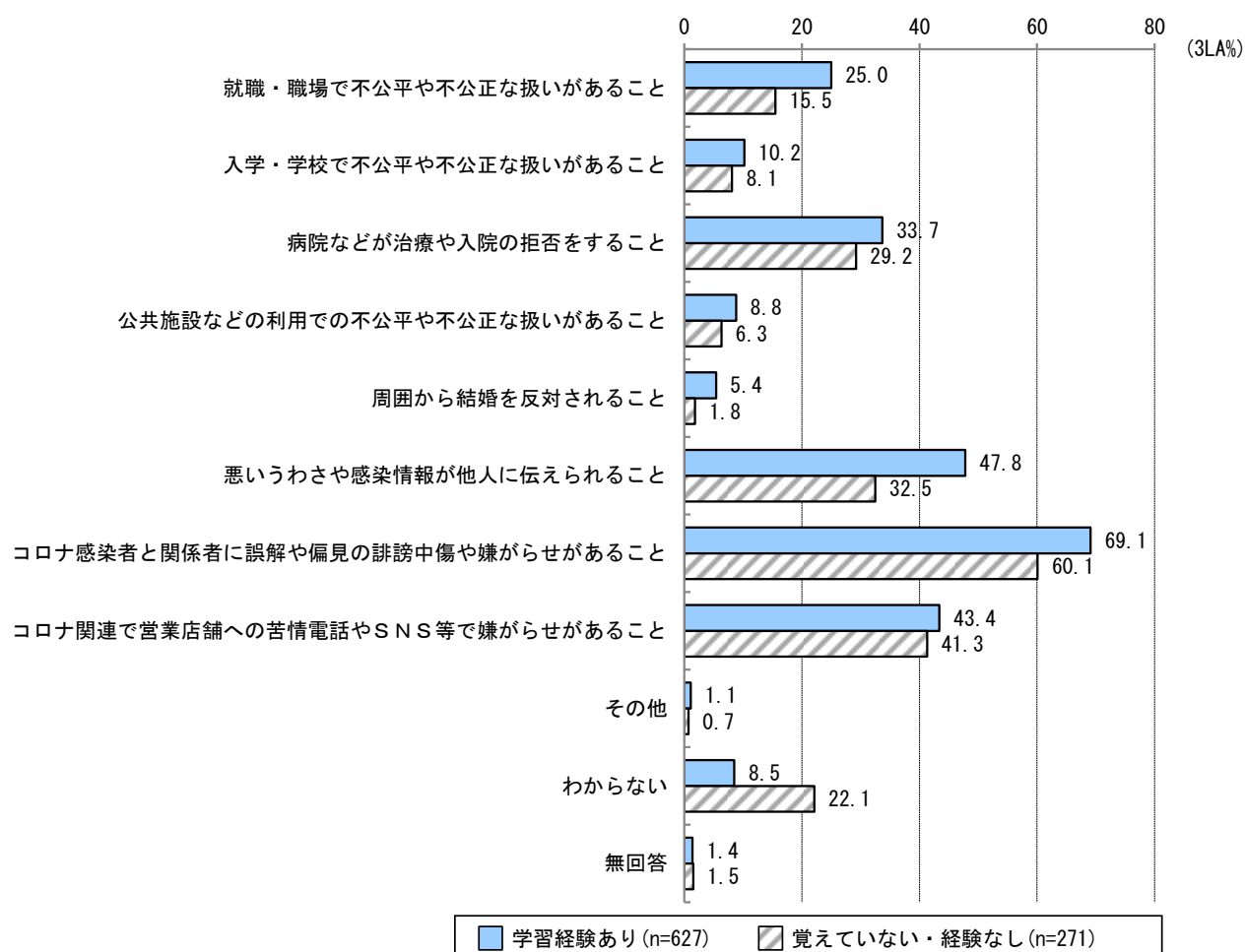
【図5-7-2 HIV感染者やハンセン病回復者等の人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、30歳代と40歳代の各年代では「就職・職場で不公平や不公正な扱いがあること」と「入学・学校で不公平や不公正な扱いがあること」が、40歳以降の各年代では「病院などが治療や入院の拒否をすること」が、それぞれ他の年代と比べて高い割合になっています。（図5-7-2）

【図5-7-3 HIV感染者やハンセン病回復者等の人権で特に問題があるもの

(人権問題についての学習経験の有無別)

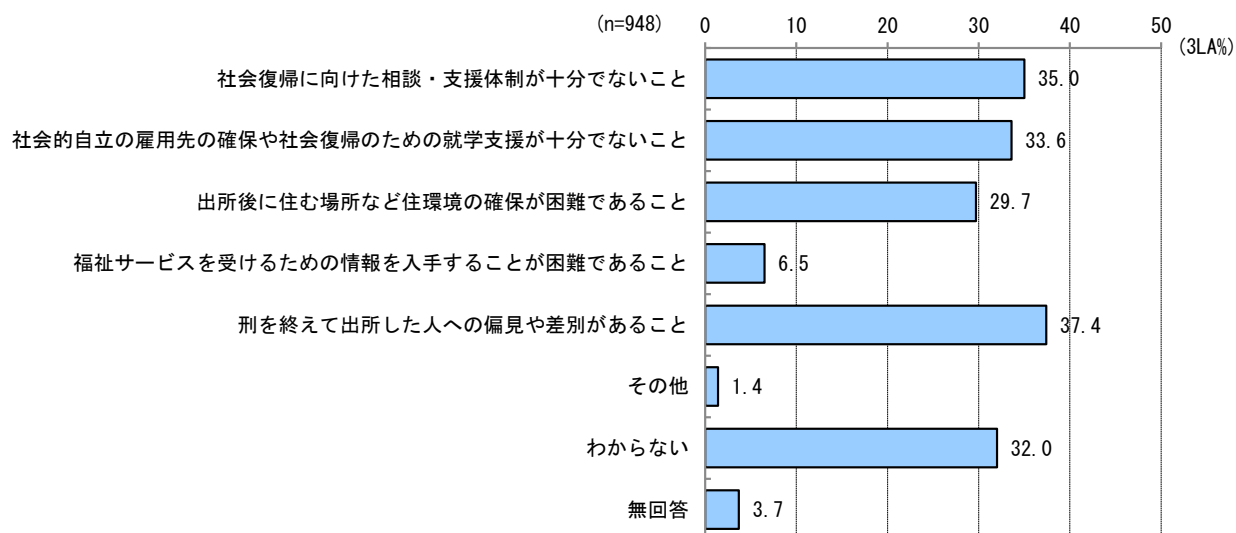


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合となる上位5項目は、「悪いうわさや感染情報が他人に伝えられること」が15.3ポイント差、「就職・職場で不公平や不公正な扱いがあること」が9.5ポイント差、「コロナ感染者と関係者に誤解や偏見の誹謗中傷や嫌がらせがあること」が9.0ポイント差、「病院などが治療や入院の拒否をすること」が4.5ポイント差、「周囲から結婚を反対されること」が3.6ポイント差となっています。一方、学習経験のない人では「わからない」が22.1%となっており、学習経験のある人（8.5%）と比べて13.6ポイント高い割合になっています。（図5-7-3）

（８）刑を終えて出所した人の人権で特に問題があるもの

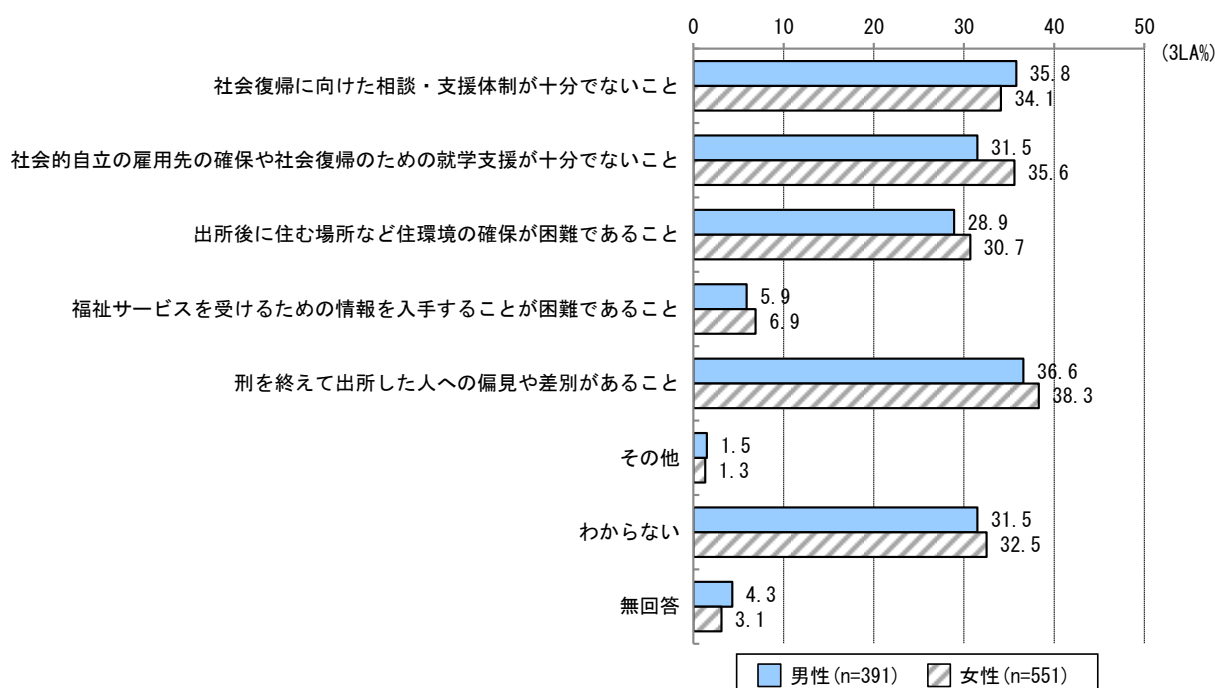
問23 刑を終えて出所した人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（○は3つまで）

【図5-8 刑を終えて出所した人の人権で特に問題があるもの】



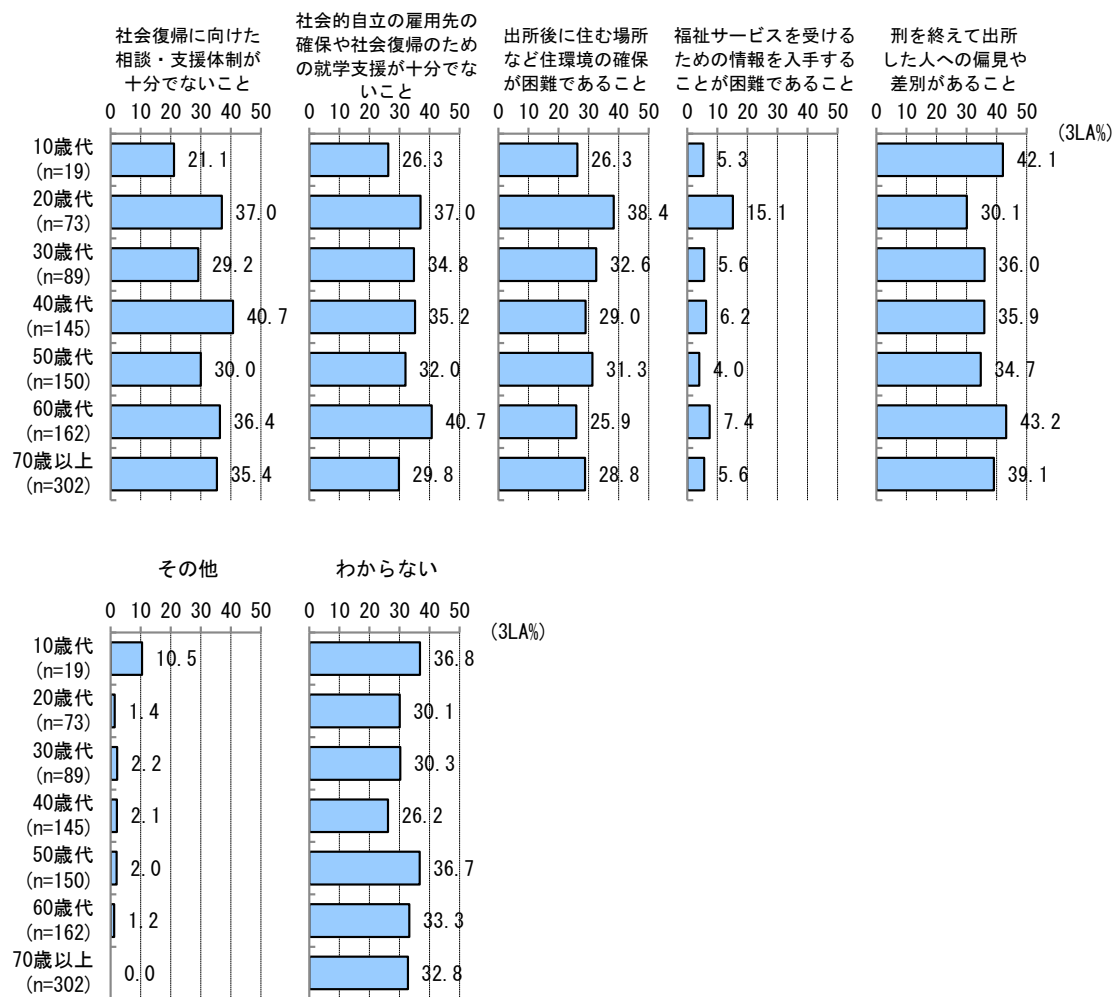
刑を終えて出所した人の人権で特に問題があるものについて、「刑を終えて出所した人への偏見や差別があること」が37.4%で最も多く、次いで「社会復帰に向けた相談・支援体制が十分でないこと」が35.0%、「社会的自立の雇用先の確保や社会復帰のための就学支援が十分でないこと」が33.6%となっています。また、「わからない」が32.0%となっています。（図5-8）

【図5-8-1 刑を終えて出所した人の人権で特に問題があるもの（性別）】



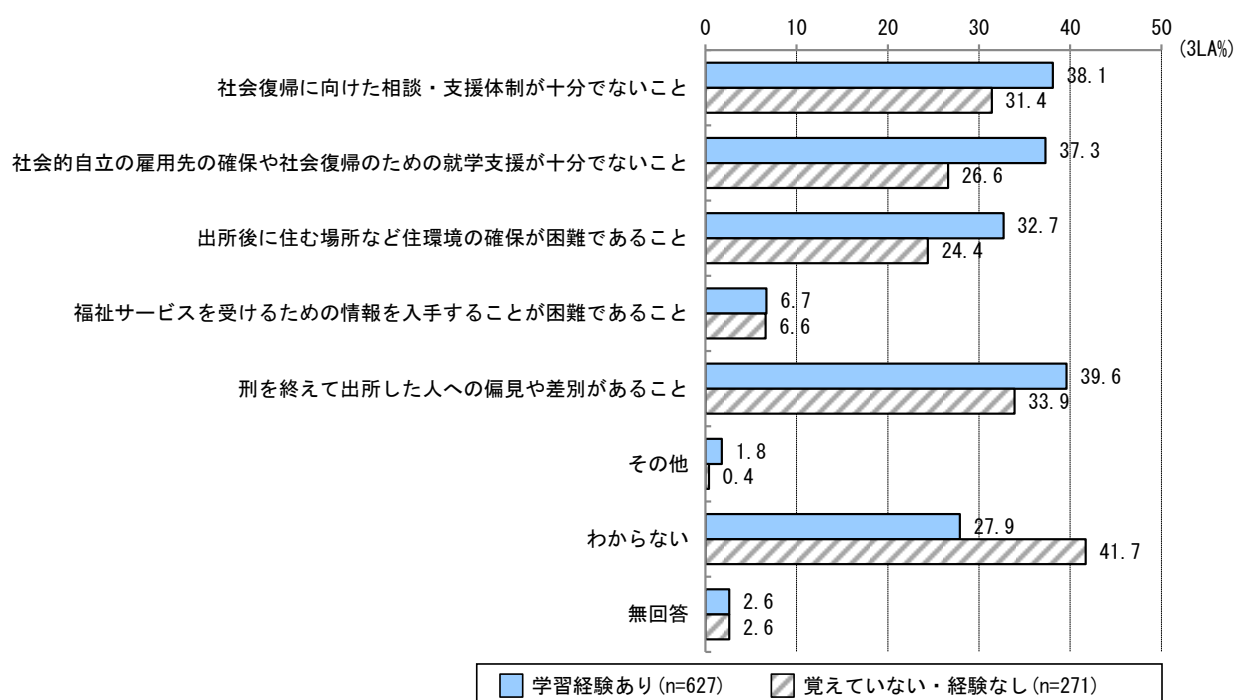
性別でみると、多くの項目で、女性が、男性と比べて高い割合になっており、なかでも「社会的自立の雇用先の確保や社会復帰のための就学支援が十分でないこと」が4.1ポイント差となっています。（図5-8-1）

【図5-8-2 刑を終えて出所した人の人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、20歳代では「出所後に住む場所など住環境の確保が困難であること」が38.4%で最も多く、「福祉サービスを受けるための情報を入手することが困難であること」は15.1%となっており、両項目とも他の年代と比べて高い割合になっています。40歳代では「社会復帰に向けた相談・支援体制が十分でないこと」が40.7%で他の年代と比べて高い割合になっています。60歳代では「刑を終えて出所した人への偏見や差別があること」が43.2%で最も多く、次いで「社会的自立の雇用先の確保や社会復帰のための就学支援が十分でないこと」が40.7%となっており、両項目とも他の年代と比べて高い割合になっています。（図5-8-2）

【図5-8-3 刑を終えて出所した人の人権で特に問題があるもの（人権問題についての学習経験の有無別）】

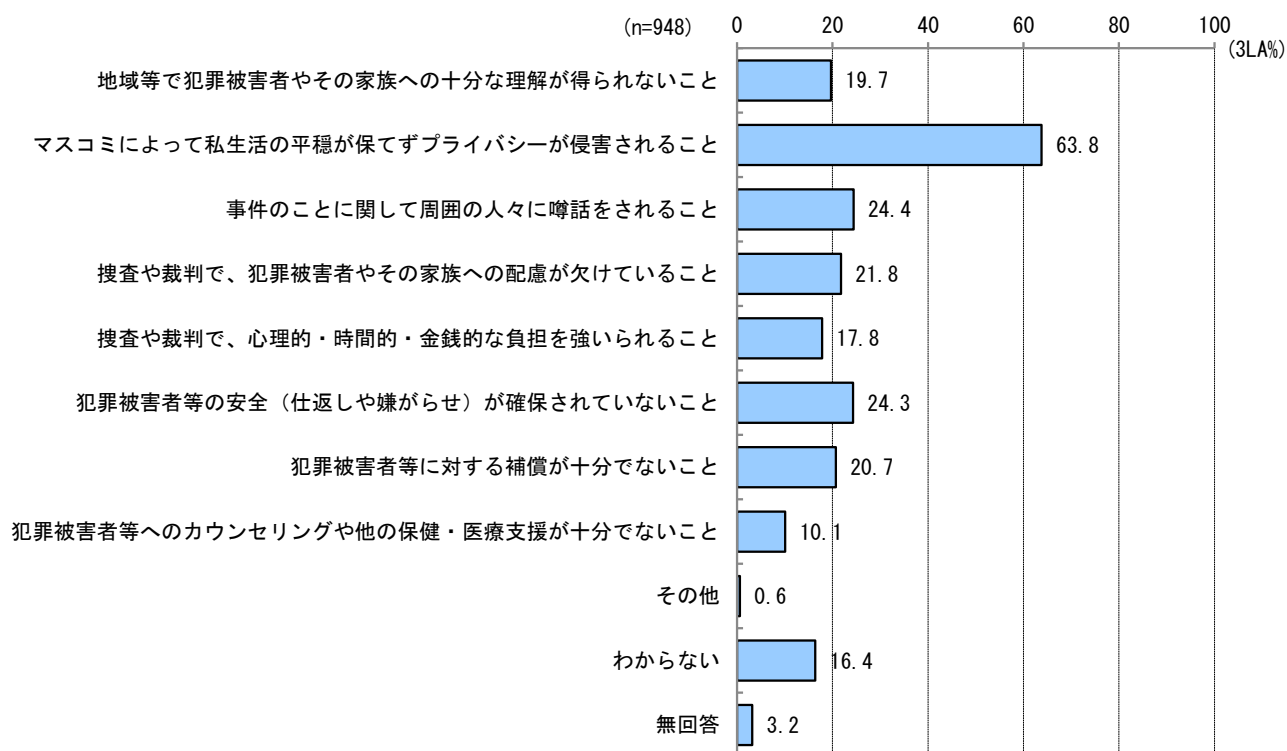


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて「社会的自立の雇用先の確保や社会復帰のための就学支援が十分でないこと」が10.7ポイント差、「出所後に住む場所など住環境の確保が困難であること」が8.3ポイント差、「社会復帰に向けた相談・支援体制が十分でないこと」が6.7ポイント差、「刑を終えて出所した人への偏見や差別があること」が5.7ポイント差で高い割合になっています。一方、学習経験のない人では「わからない」が41.7%となっており、学習経験のある人（27.9%）と比べて13.8ポイント高い割合になっています。（図5-8-3）

(9) 犯罪被害者やその家族の人権で特に問題があるもの

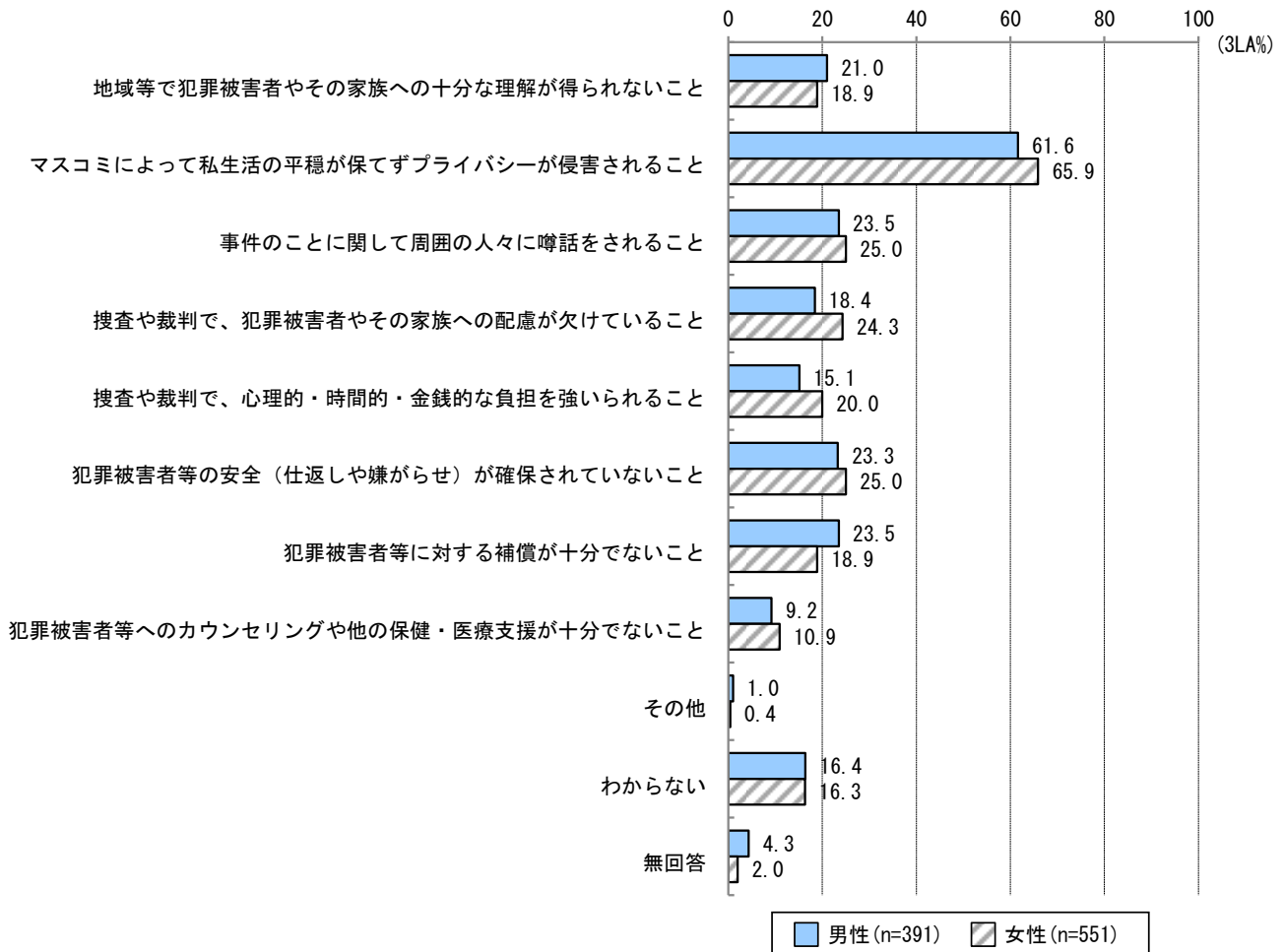
問24 犯罪被害者やその家族に関する事で、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【図5-9 犯罪被害者やその家族の人権で特に問題があるもの】



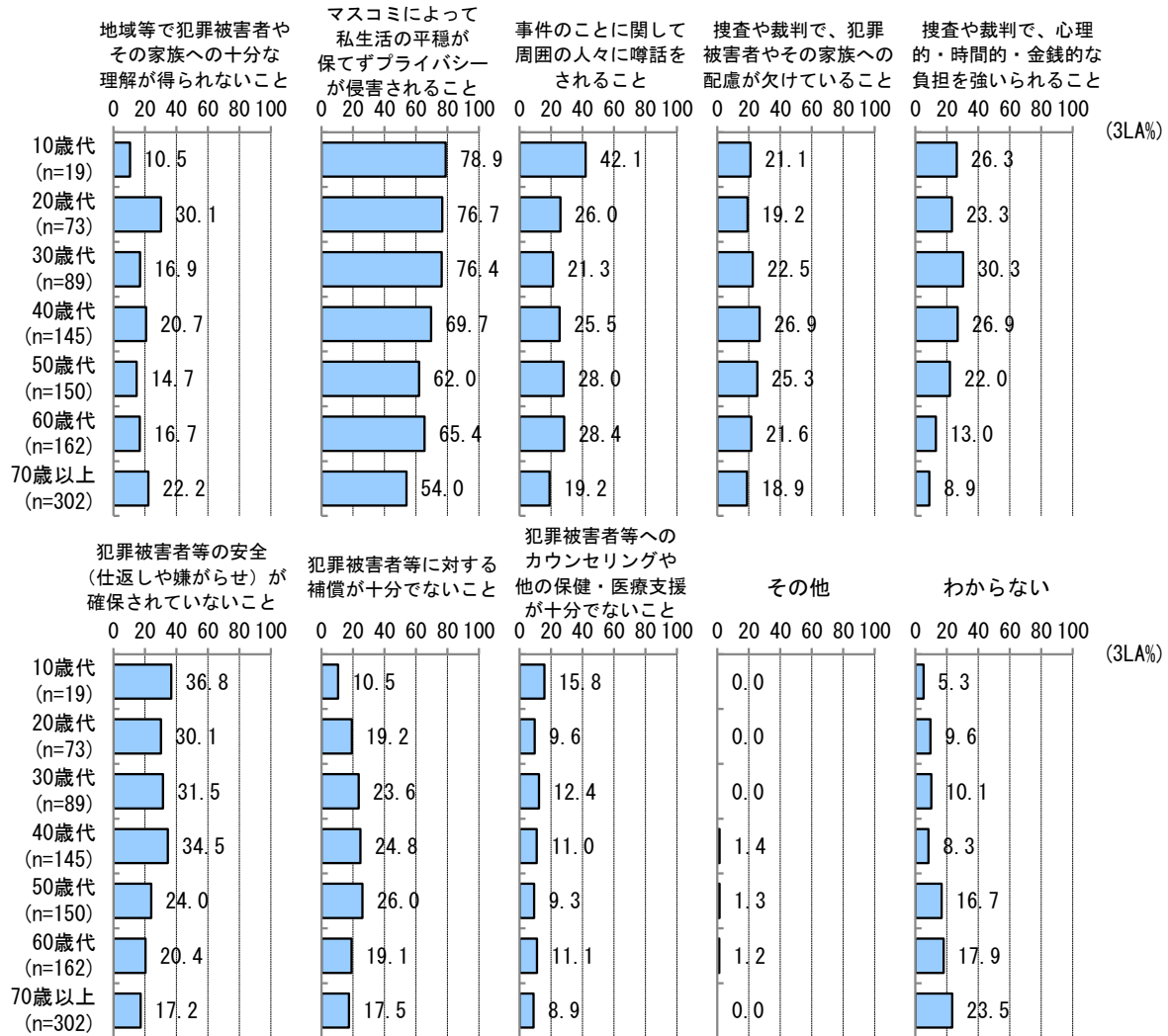
犯罪被害者やその家族の人権で特に問題があるものについて、「マスコミによって私生活の平穏が保てずプライバシーが侵害されること」が63.8%で最も多く、次いで「事件のことにに関して周囲の人々に噂話をされること」が24.4%、「犯罪被害者等の安全（仕返しや嫌がらせ）が確保されていないこと」が24.3%となっています。（図5-9）

【図5-9-1 犯罪被害者やその家族の人権で特に問題があるもの（性別）】



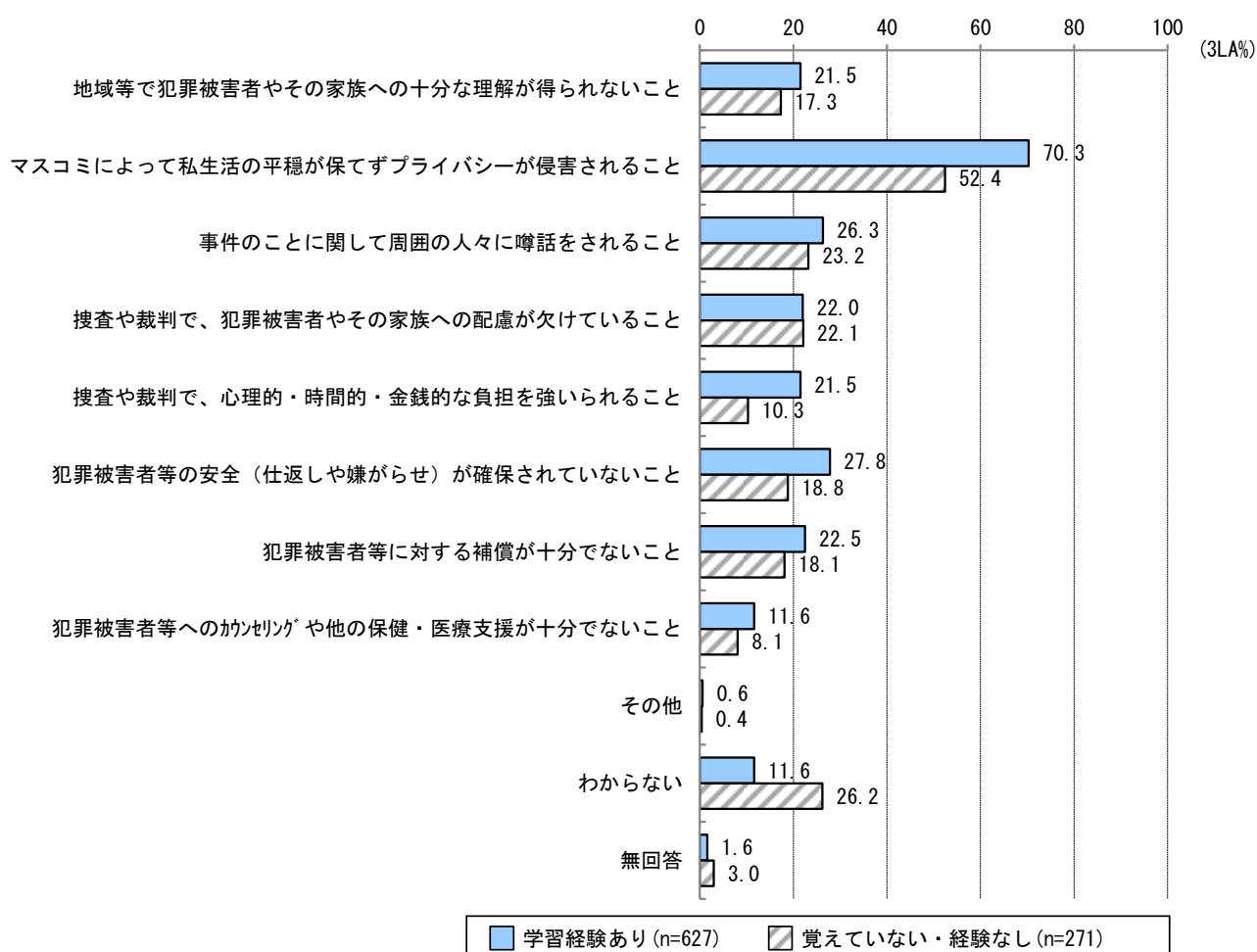
性別でみると、男性は女性と比べて「犯罪被害者等に対する補償が十分でないこと」が4.6ポイント高い割合になっています。一方、女性では「捜査や裁判で、犯罪被害者やその家族への配慮が欠けていること」が5.9ポイント差、「捜査や裁判で、心理的・時間的・金銭的な負担を強いられること」が4.9ポイント差、「マスコミによって私生活の平穏が保てずプライバシーが侵害されること」が4.3ポイント差で、男性と比べて高い割合になっています。（図5-9-1）

【図5-9-2 犯罪被害者やその家族の人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、若い年代ほど「マスコミによって私生活の平穏が保てずプライバシーが侵害されること」や「捜査や裁判で、心理的・時間的・金銭的な負担を強いられること」、「犯罪被害者等の安全（仕返しや嫌がらせ）が確保されていないこと」の割合が高くなる傾向にあります。また、高齢になるほど「わからない」の割合が高くなっています。（図5-9-2）

【図5-9-3 犯罪被害者やその家族の人権で特に問題があるもの（人権問題についての学習経験の有無別）】

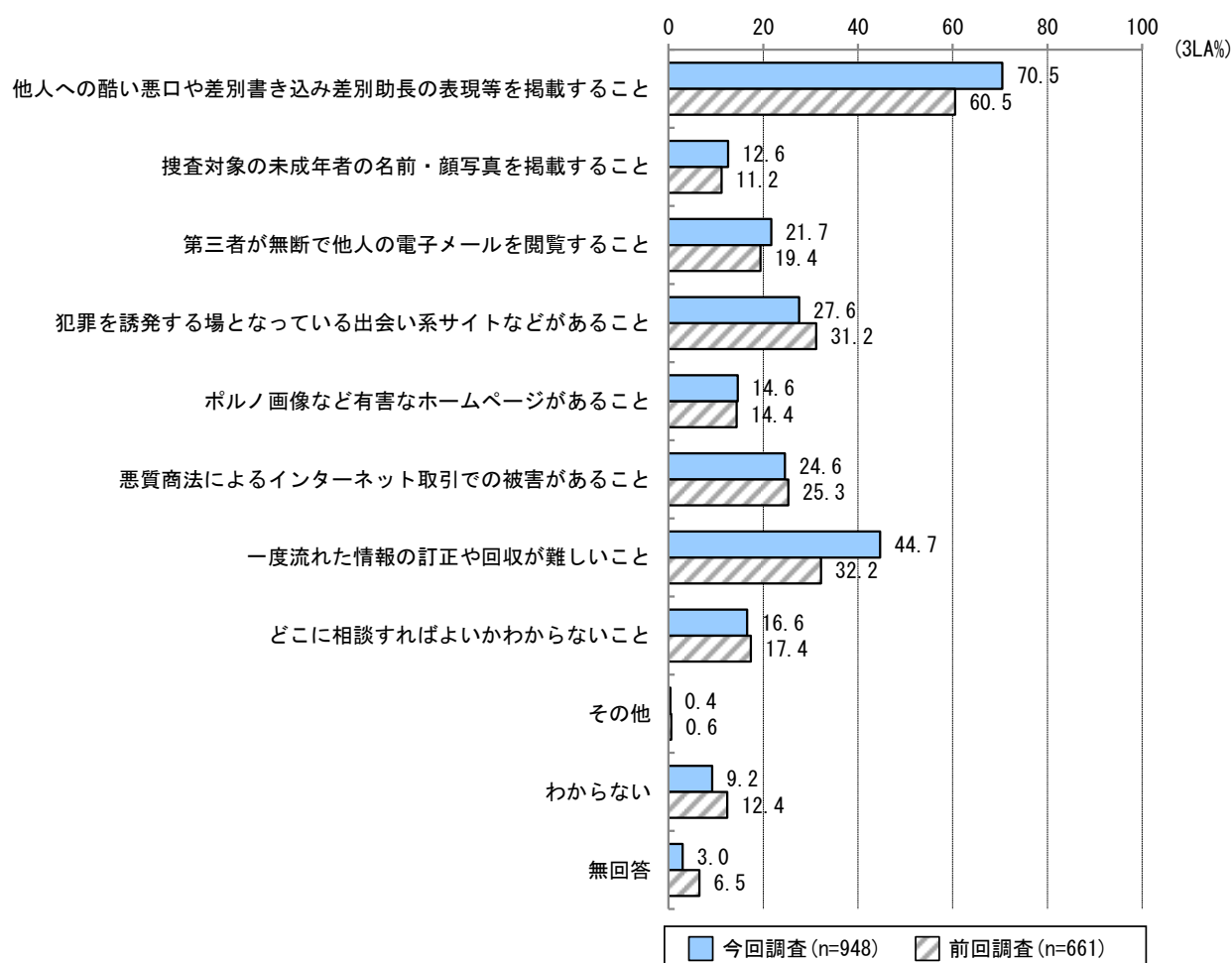


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合となる上位5項目は、「マスコミによって私生活の平穏が保てずプライバシーが侵害されること」が17.9ポイント差、「捜査や裁判で、心理的・時間的・金銭的な負担を強いられること」が11.2ポイント差、「犯罪被害者等の安全（仕返しや嫌がらせ）が確保されていないこと」が9.0ポイント差、「犯罪被害者等に対する補償が十分でないこと」が4.4ポイント差、「地域等で犯罪被害者やその家族への十分な理解が得られないこと」が4.2ポイント差となっています。一方、学習経験のない人では「わからない」が26.2%となっており、学習経験のある人（11.6%）と比べて14.6ポイント高い割合になっています。（図5-9-3）

(10) インターネット上の人権問題で特に問題があるもの

問25 インターネット上の人権問題について、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

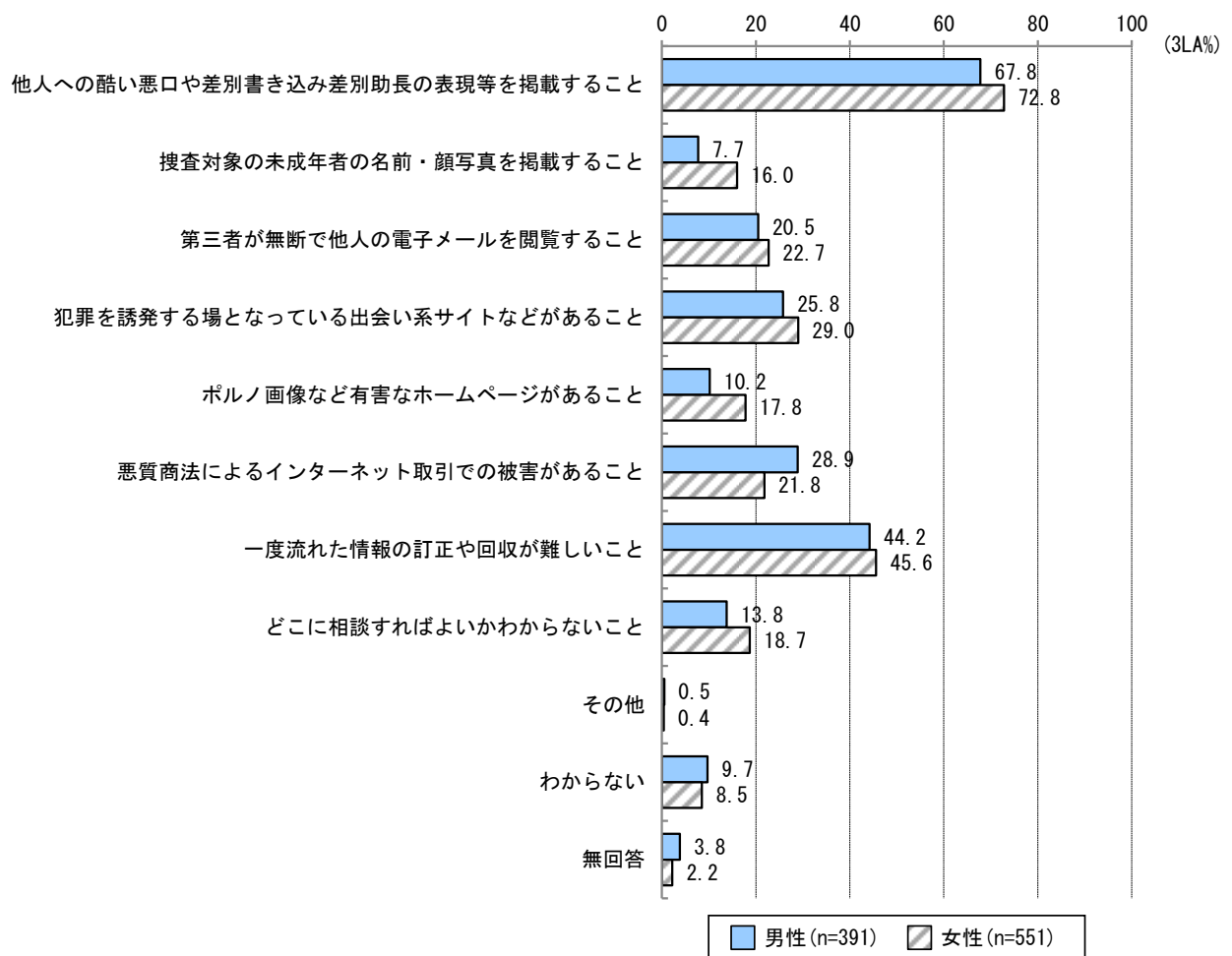
【図5-10 インターネット上の人権問題で特に問題があるもの（経年比較）】



インターネット上の人権問題で特に問題があるものについて、「他人への酷い悪口や差別書き込み差別助長の表現等を掲載すること」が70.5%で最も多く、次いで「一度流れた情報の訂正や回収が難しいこと」が44.7%、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」が27.6%となっています。

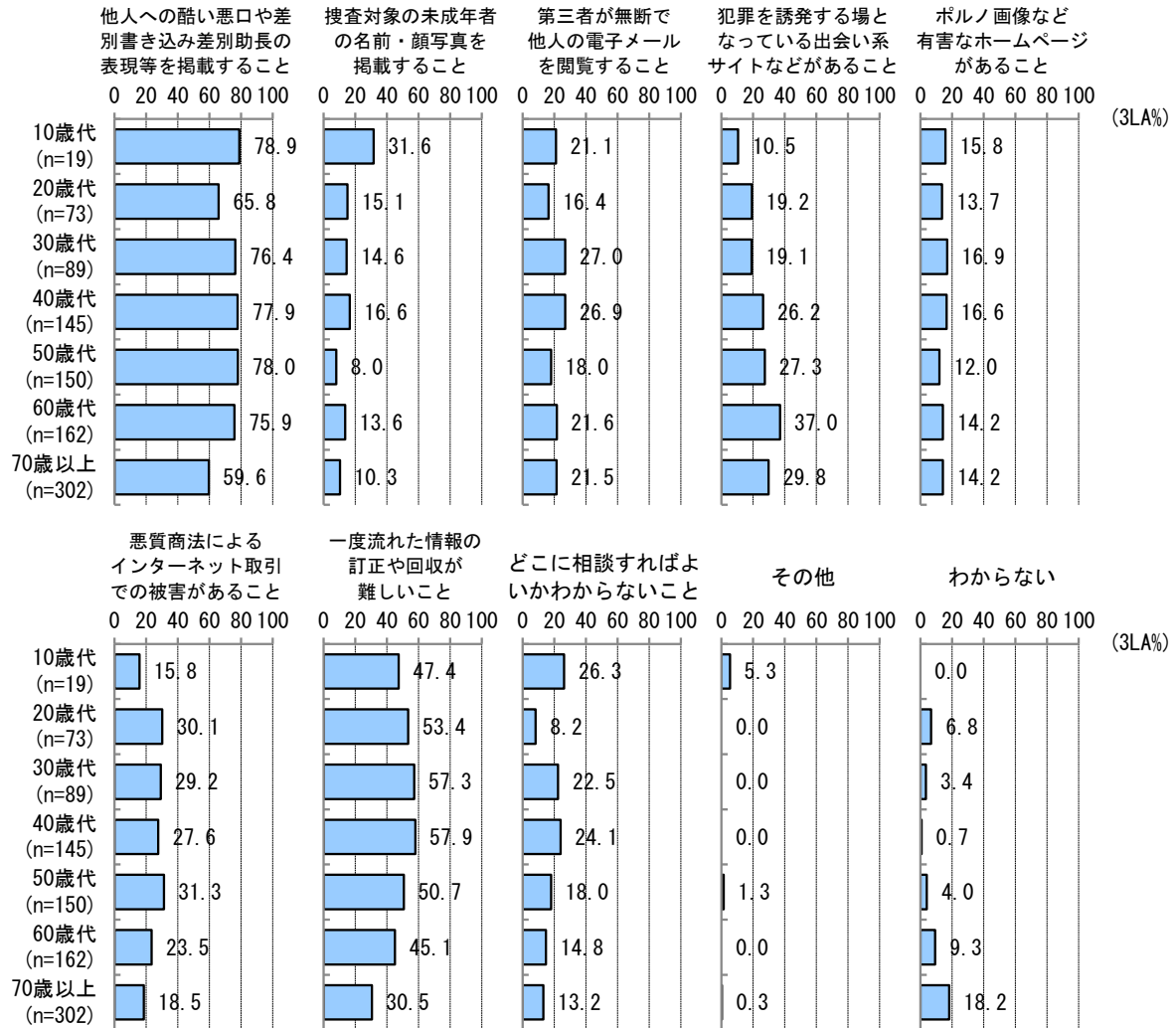
前回調査と比較すると、「一度流れた情報の訂正や回収が難しいこと」が12.5ポイント、、「他人への酷い悪口や差別書き込み差別助長の表現等を掲載すること」が10.0ポイント高くなっています。(図5-10)

【図5-10-1 インターネット上の人権問題で特に問題があるもの（性別）】



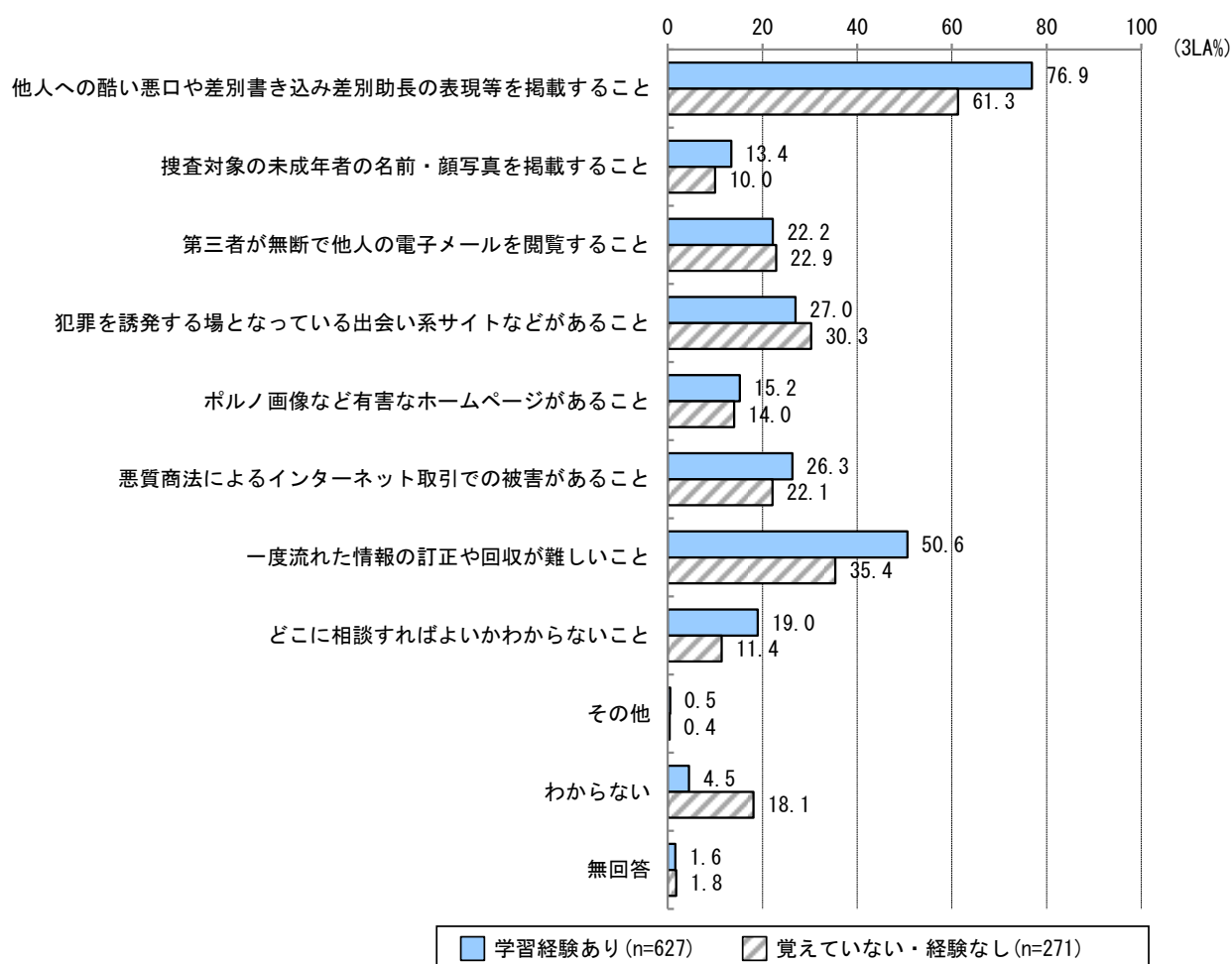
性別でみると、男性は女性と比べて「悪質商法によるインターネット取引での被害があること」の割合が7.1ポイント高い割合になっています。一方、女性では「捜査対象の未成年者の名前・顔写真を掲載すること」が8.3ポイント差、「ポルノ画像など有害なホームページがあること」が7.6ポイント差、「他人への酷い悪口や差別書き込み差別助長の表現等を掲載すること」が5.0ポイント差で、男性と比べて高い割合になっています。また、「どこに相談すればよいかわからないこと」では、女性が18.7%で男性（13.8%）と比べて4.9ポイント高い割合になっています。（図5-10-1）

【図5-10-2 インターネット上の人権問題で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、高齢になるほど「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」の割合が高くなる傾向にあります。また、「どこに相談すればよいかわからないこと」では、20歳代の8.2%に対し、30歳代は22.5%、40歳代は24.1%と比較的高い割合になっています。（図5-10-2）

【図5-10-3 インターネット上の人権問題で特に問題があるもの（人権問題についての学習経験の有無別）】

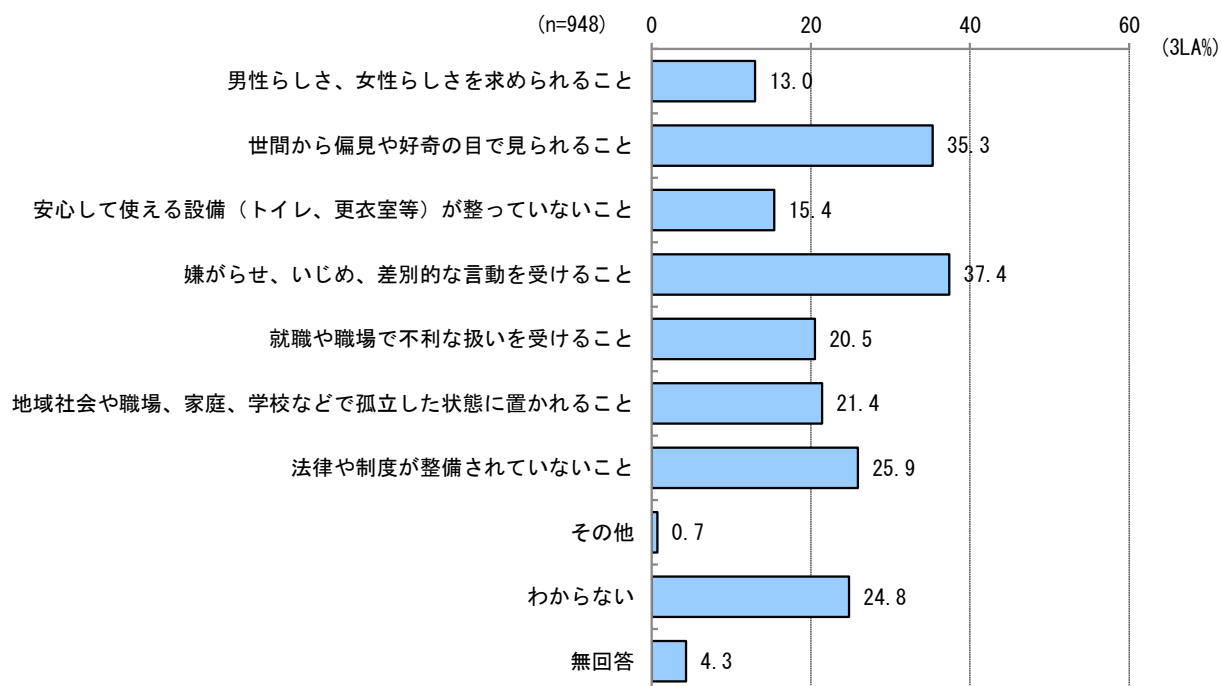


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合となる上位5項目は、「他人への酷い悪口や差別書き込み差別助長の表現等を掲載すること」が15.6ポイント差、「一度流れた情報の訂正や回収が難しいこと」が15.2ポイント差、「どこに相談すればよいかわからないこと」が7.6ポイント差、「悪質商法によるインターネット取引での被害があること」が4.2ポイント差、「捜査対象の未成年者の名前・顔写真を掲載すること」が3.4ポイント差となっています。一方、学習経験のない人では「わからない」が18.1%となっており、学習経験のある人（4.5%）と比べて13.6ポイント高い割合になっています。（図5-10-3）

(11) 性的指向・性自認に関する人権で特に問題があるもの

問26 性的指向・性自認に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

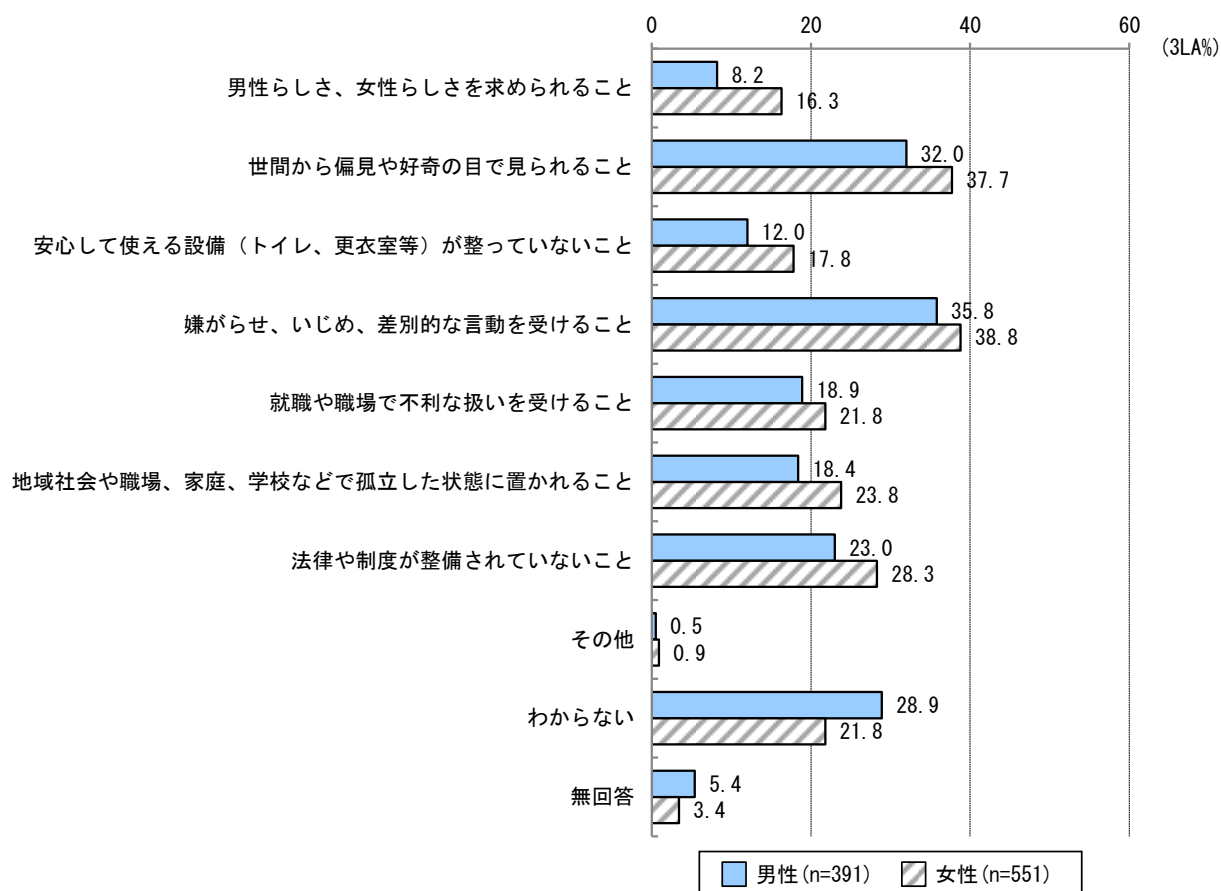
【図5-11 性的指向・性自認に関する人権で特に問題があるもの】



性的指向・性自認に関する人権で特に問題があるものについて、「嫌がらせ、いじめ、差別的な言動を受けること」が37.4%で最も多く、次いで「世間から偏見や好奇の目で見られること」が35.3%、「法律や制度が整備されていないこと」が25.9%となっています。

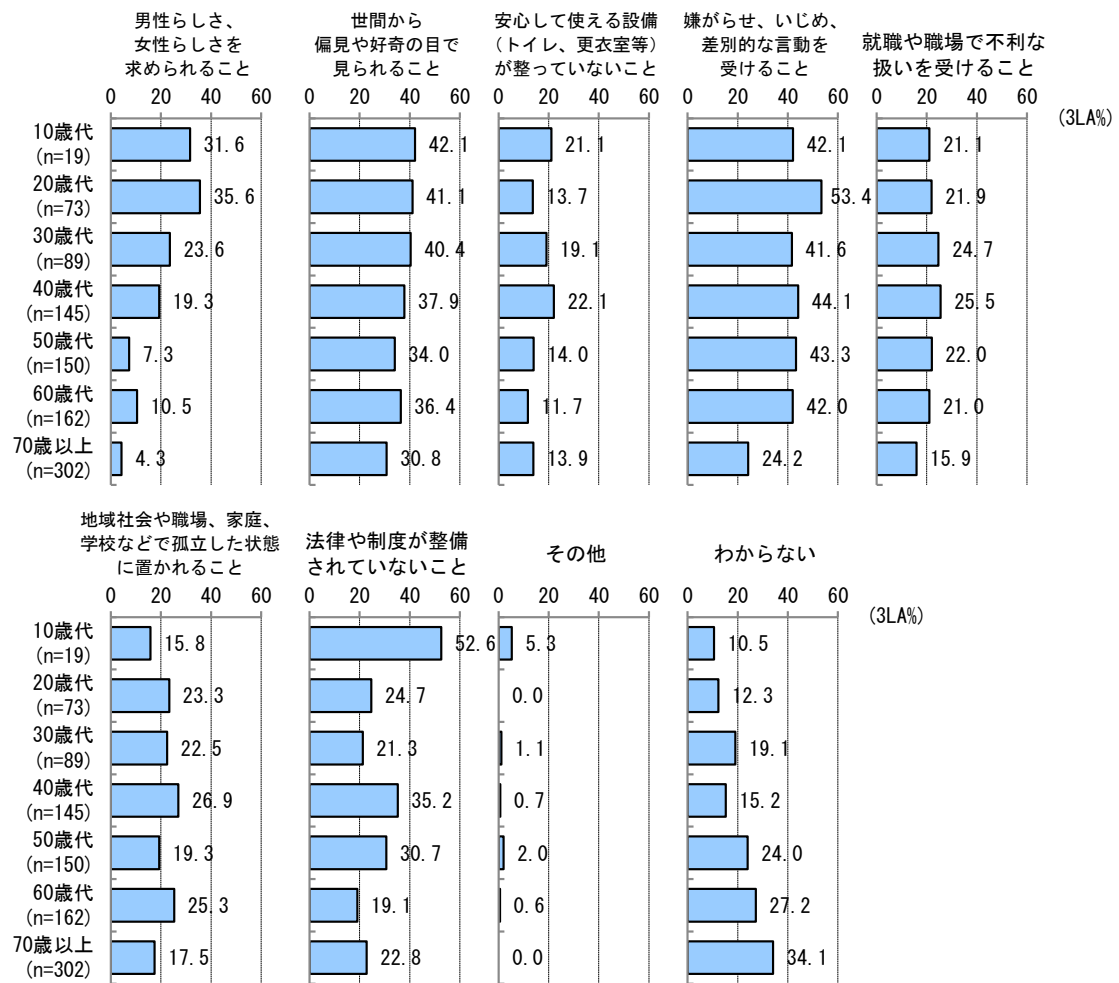
また、「わからない」が24.8%と約4人に1人の割合となっています。(図5-11)

【図5-11-1 性的指向・性自認に関する人権で特に問題があるもの（性別）】



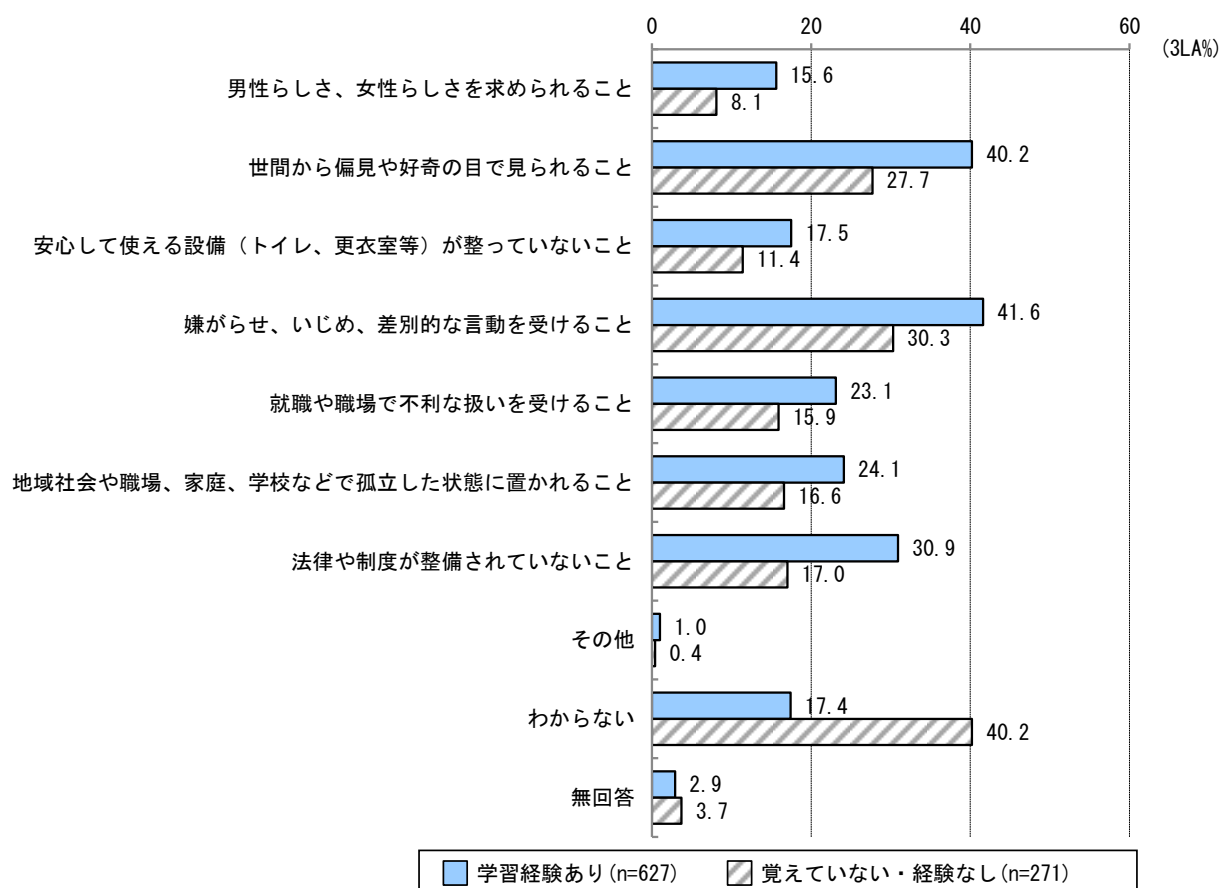
性別でみると、いずれの項目も、女性が、男性と比べて高い割合になっており、5ポイント以上の差となる項目が多く、なかでも「男性らしさ、女性らしさを求められること」は8.1ポイント差となっています。一方、男性は「わからない」が28.9%で女性（21.8%）と比べて7.1ポイント高い割合になっています。（図5-11-1）

【図5-11-2 性的指向・性自認に関する人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、若い年代ほど「男性らしさ、女性らしさを求められること」と「世間から偏見や好奇の目で見られること」の割合が高くなる傾向にあります。また、20歳代では「男性らしさ、女性らしさを求められること」（35.6%）と「嫌がらせ、いじめ、差別的な言動を受けること」（53.4%）の割合が他の年代と比べて高い割合になっています。一方、高齢になるほど「わからない」の割合が高くなっています。（図5-11-2）

【図5-11-3 性的指向・性自認に関する人権で特に問題があるもの（人権問題についての学習経験の有無別）】

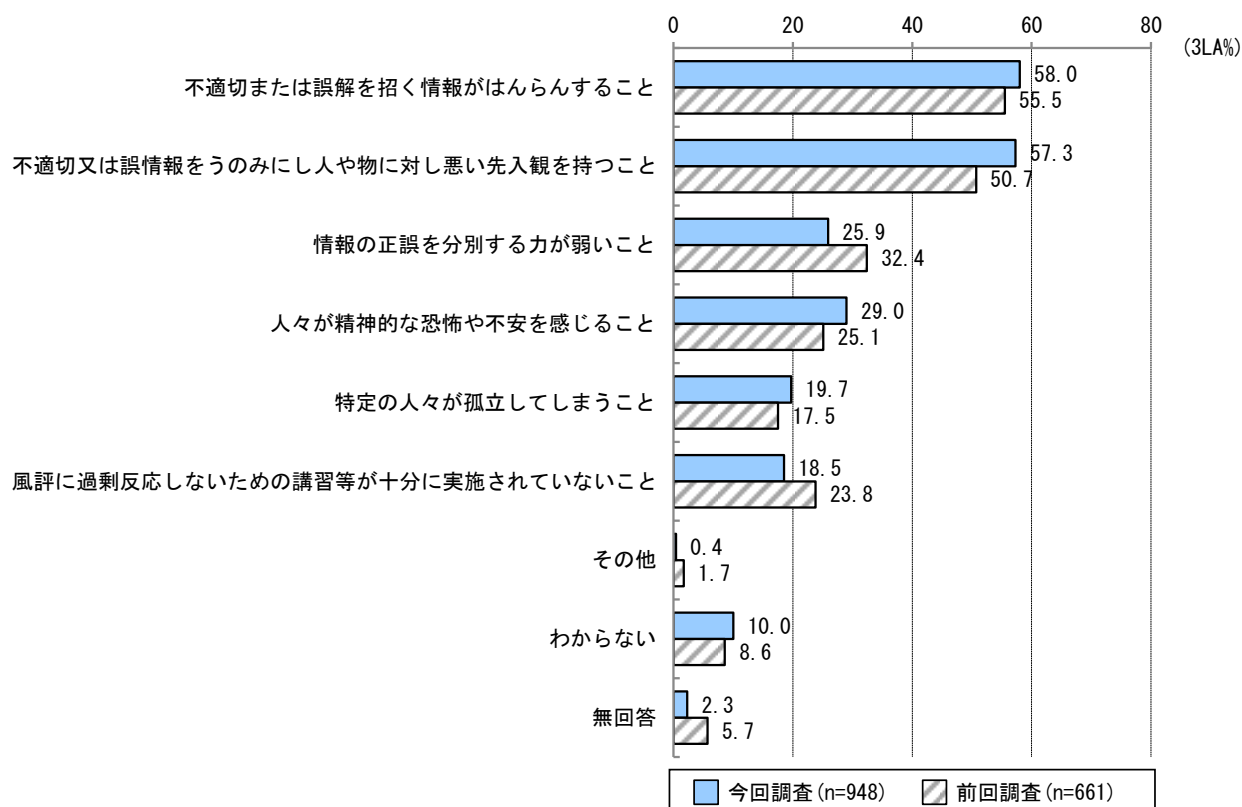


人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて高い割合となる上位5項目は、「法律や制度が整備されていないこと」が13.9ポイント差、「世間から偏見や好奇の目で見られること」が12.5ポイント差、「嫌がらせ、いじめ、差別的な言動を受けること」が11.3ポイント差、「男らしさ、女性らしさを求められること」と「地域社会や職場、家庭、学校などで孤立した状態に置かれること」がともに7.5ポイント差となっています。一方、学習経験のない人では「わからない」が40.2%となっており、学習経験のある人（17.4%）と比べて22.8ポイント高い割合になっています。（図5-11-3）

(12) 災害、事故などによる風評被害に関する人権問題で特に問題があるもの

問27 災害・事故などによる風評被害に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(○は3つまで)

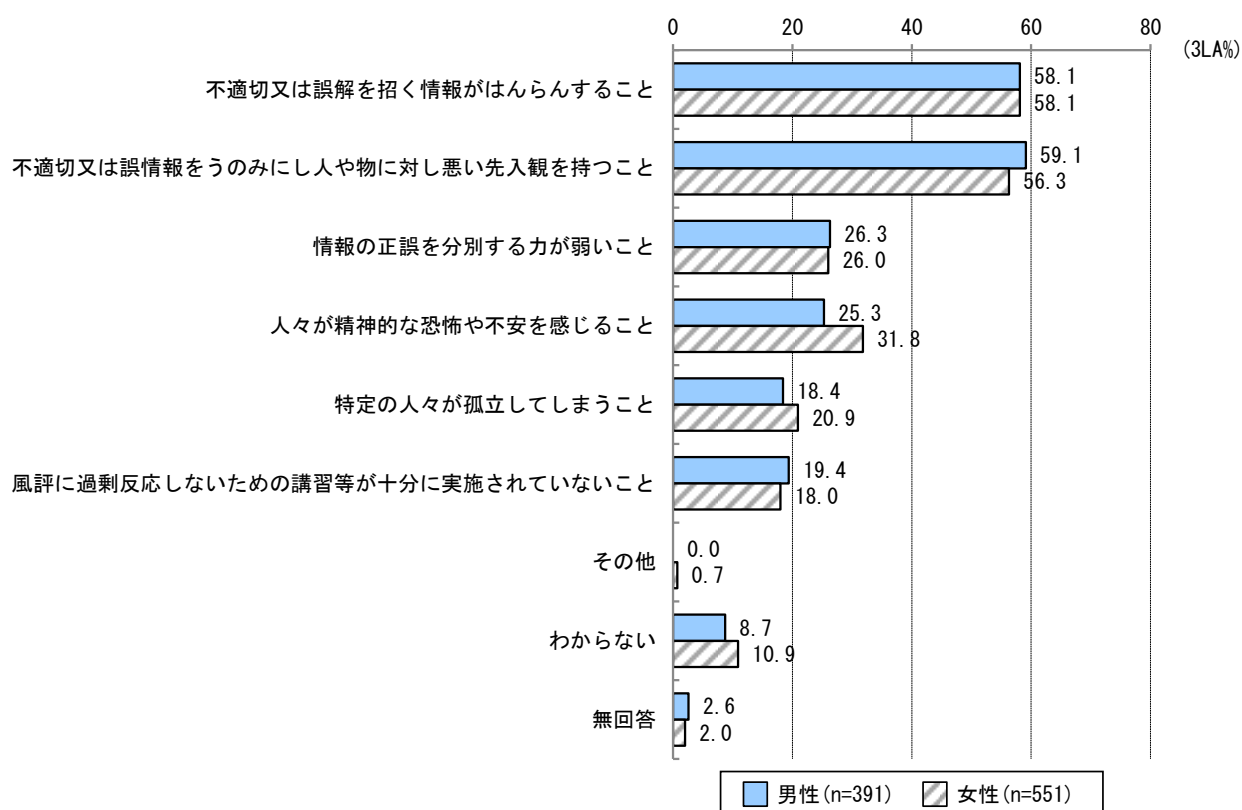
【図5-12 災害、事故などによる風評被害に関する人権で特に問題があるもの（経年比較）】



災害、事故などによる風評被害に関する人権で特に問題があるものについて、「不適切または誤解を招く情報がはらんすること」が58.0%で最も多く、次いで「不適切又は誤情報をうのみにし人や物に対し悪い先入観を持つこと」が57.3%、「人々が精神的な恐怖や不安を感じることに」が29.0%となっています。

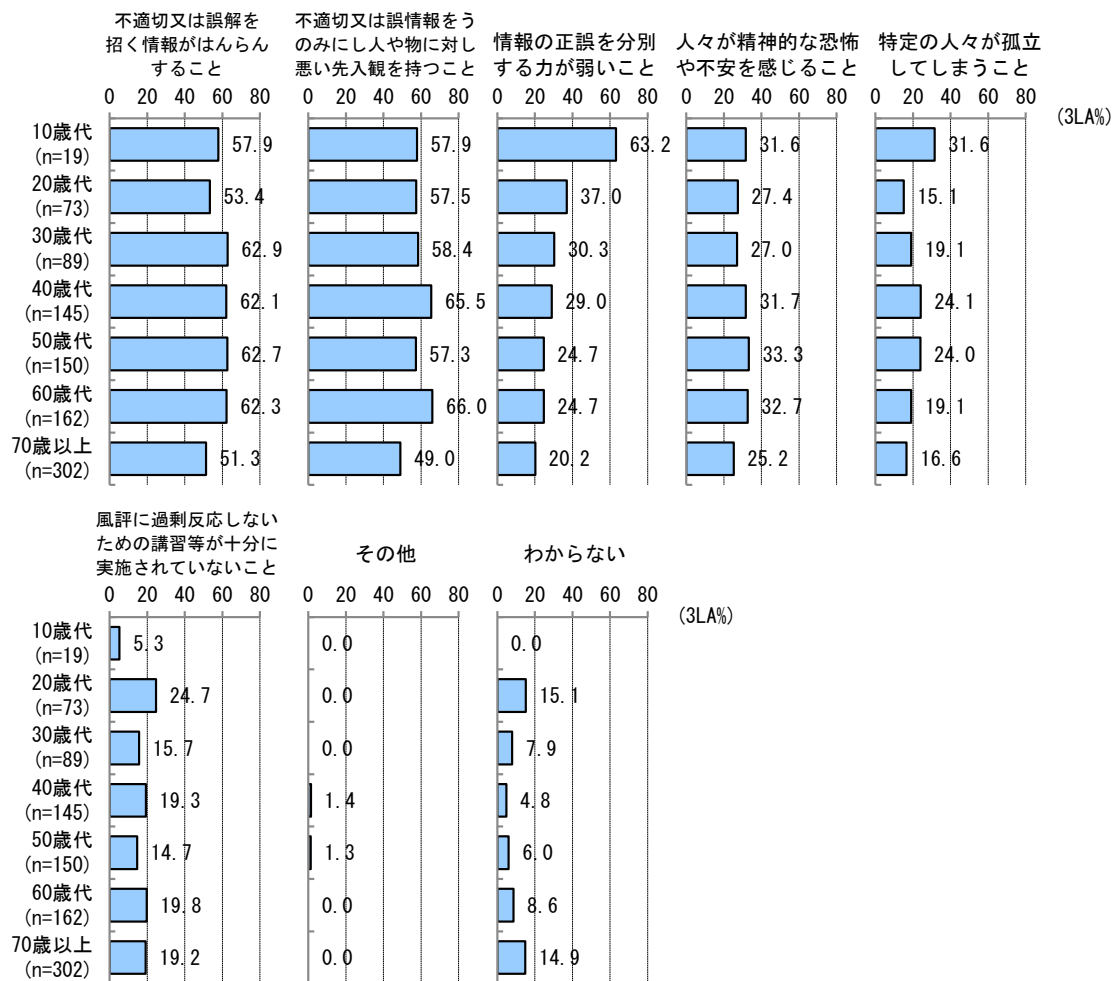
前回調査と比較すると、「不適切又は誤情報をうのみにし人や物に対し悪い先入観を持つこと」が6.6ポイント高くなっています。一方、「情報の正誤を分別する力が弱いこと」は6.5ポイント、「風評に過剰反応しないための講習等が十分に実施されていないこと」は5.3ポイント低くなっています。(図5-12)

【図5-12-1 災害、事故などによる風評被害に関する人権で特に問題があるもの（性別）】



性別でみると、女性は男性と比べて「人々が精神的な恐怖や不安を感じることに」が6.5ポイント高い割合になっています。(図5-12-1)

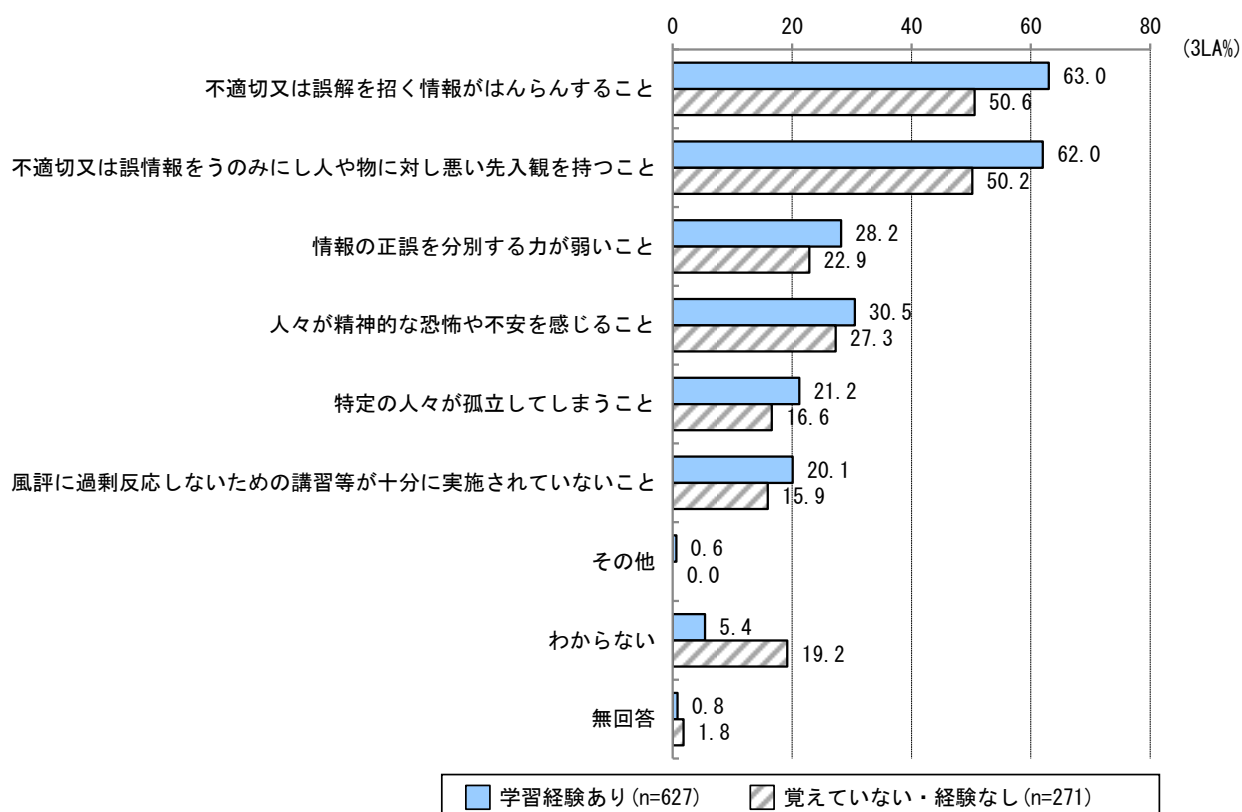
【図5-12-2 災害、事故などによる風評被害に関する人権で特に問題があるもの（年代別）】



年代別でみると、若い年代ほど「情報の正誤を分別する力が弱いこと」の割合が高くなる傾向にあります。また、20歳代では「風評に過剰反応しないための講習等が十分に実施されていないこと」が24.7%で他の年代と比べて高い割合になっています。（図5-12-2）

【図5-12-3 災害、事故などによる風評被害に関する人権で特に問題があるもの

(人権問題についての学習経験の有無別)



人権問題についての学習経験の有無別でみると、学習経験のある人が、学習経験のない人と比べて「不適切又は誤解を招く情報がはんらんすること」が12.4ポイント差、「不適切又は誤情報をうのみにし人や物に対し悪い先入観を持つこと」が11.8ポイント差、「情報の正誤を分別する力が弱いこと」が5.3ポイント差、「特定の人々が孤立してしまうこと」が4.6ポイント差、「風評に過剰反応しないための講習等が十分に実施されていないこと」が4.2ポイント差、「人々が精神的な恐怖や不安を感じることに」が3.2ポイント差で高い割合になっています。一方、学習経験のない人では「わからない」が19.2%となっており、学習経験のある人（5.4%）と比べて13.8ポイント高い割合になっています。（図5-12-3）